

## 第2章 岐阜市の将来像、政策の満足度、優先度の設問

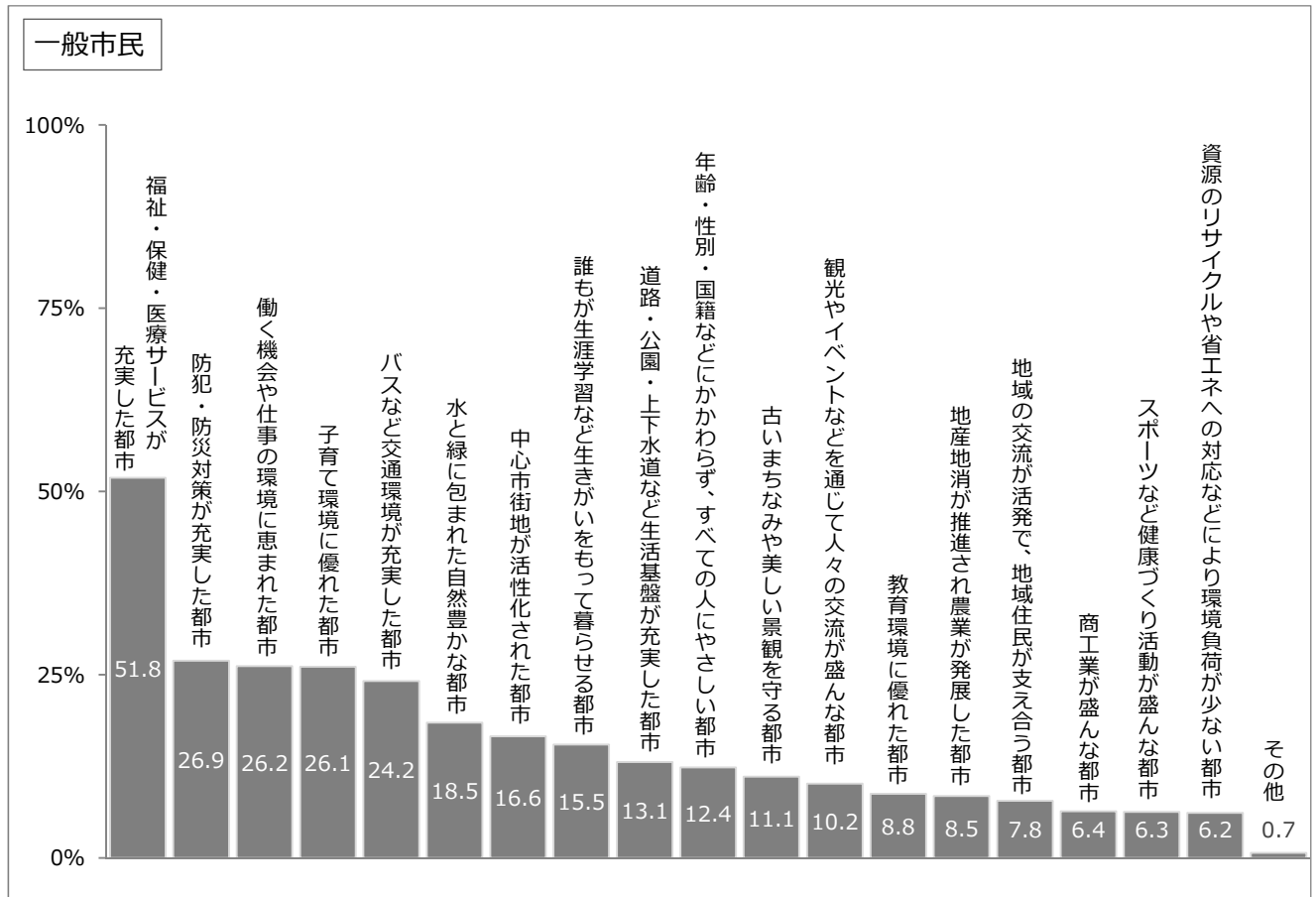
### 1 岐阜市の将来像

おおよそ10年後、岐阜市がどのような都市になってほしいと思いますか。（考えに近いものを3つ選択）

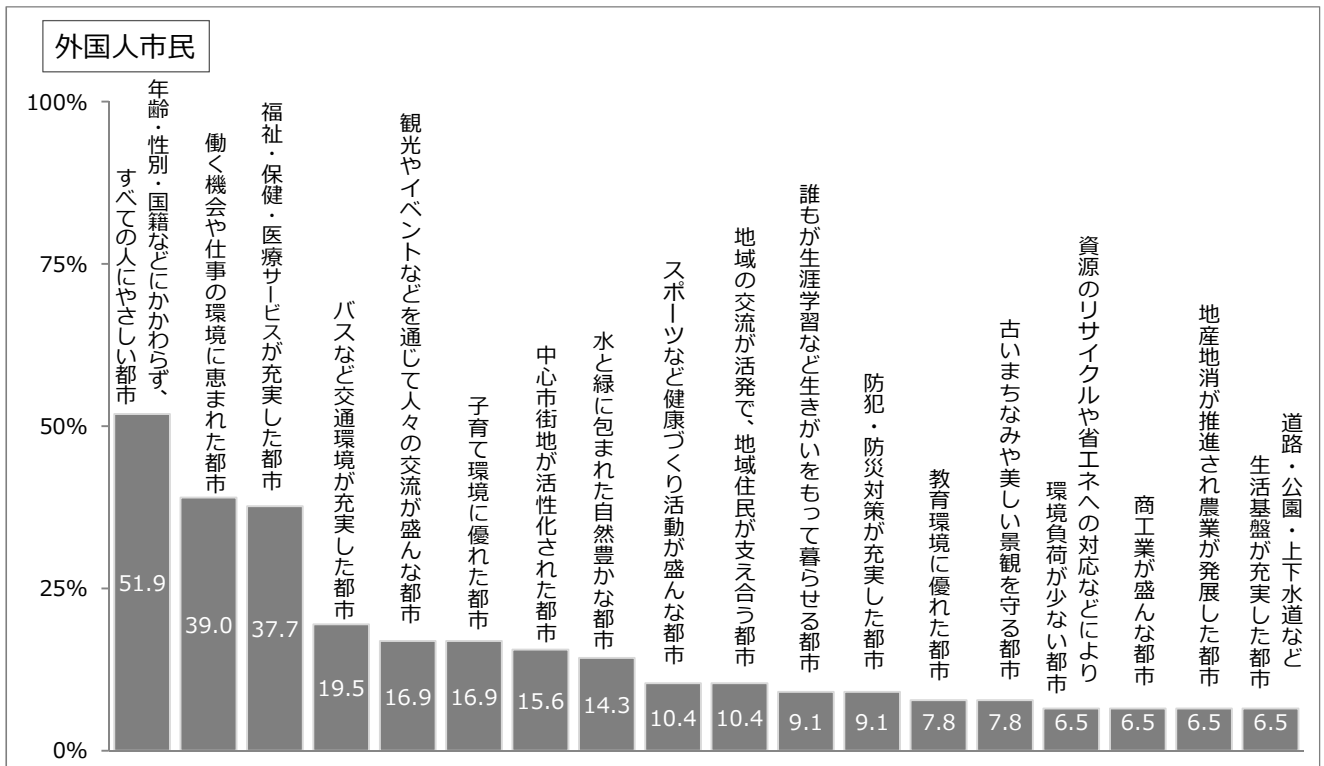
一般市民  
Q72  
n=1,950

外国人市民  
Q43  
n=77

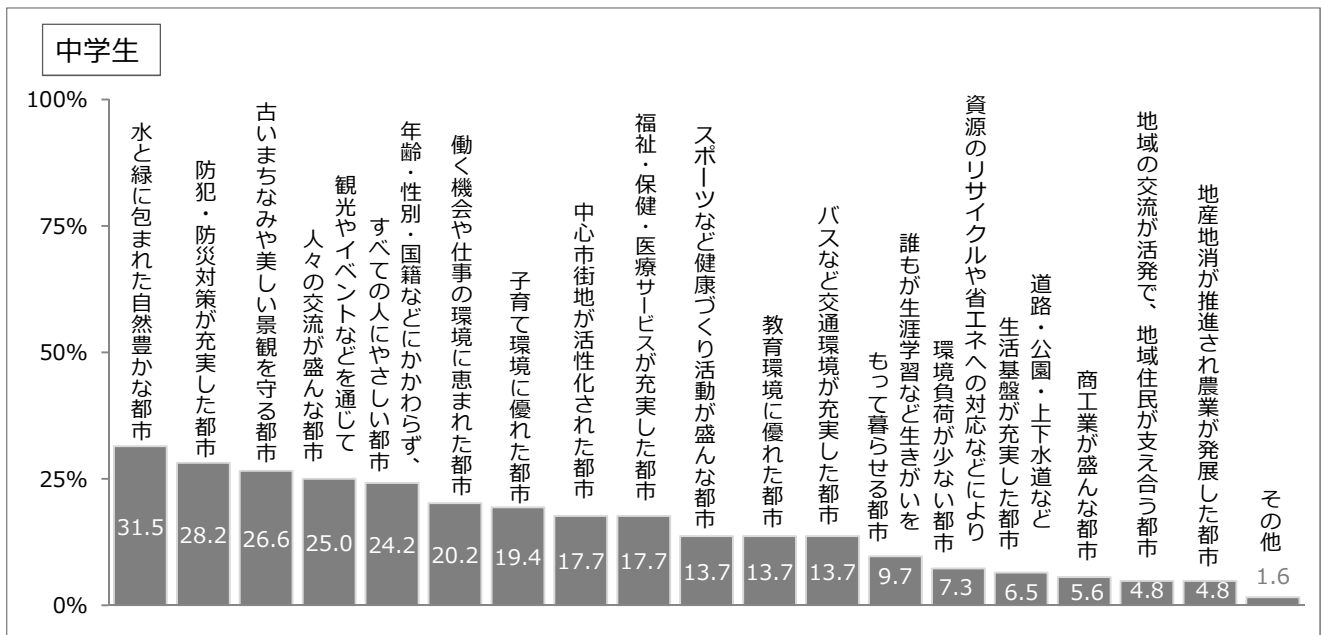
中学生  
Q36  
n=124



おおよそ10年後の岐阜市の将来像について選択された割合が最も高かったものは、「福祉・保健・医療サービスが充実した都市」(51.8%)となり、次いで、「防犯・防災対策が充実した都市」(26.9%)、「働く機会や仕事の環境に恵まれた都市」(26.2%)、「子育て環境に優れた都市」(26.1%)、「バスなど交通環境が充実した都市」(24.2%)が続いた。

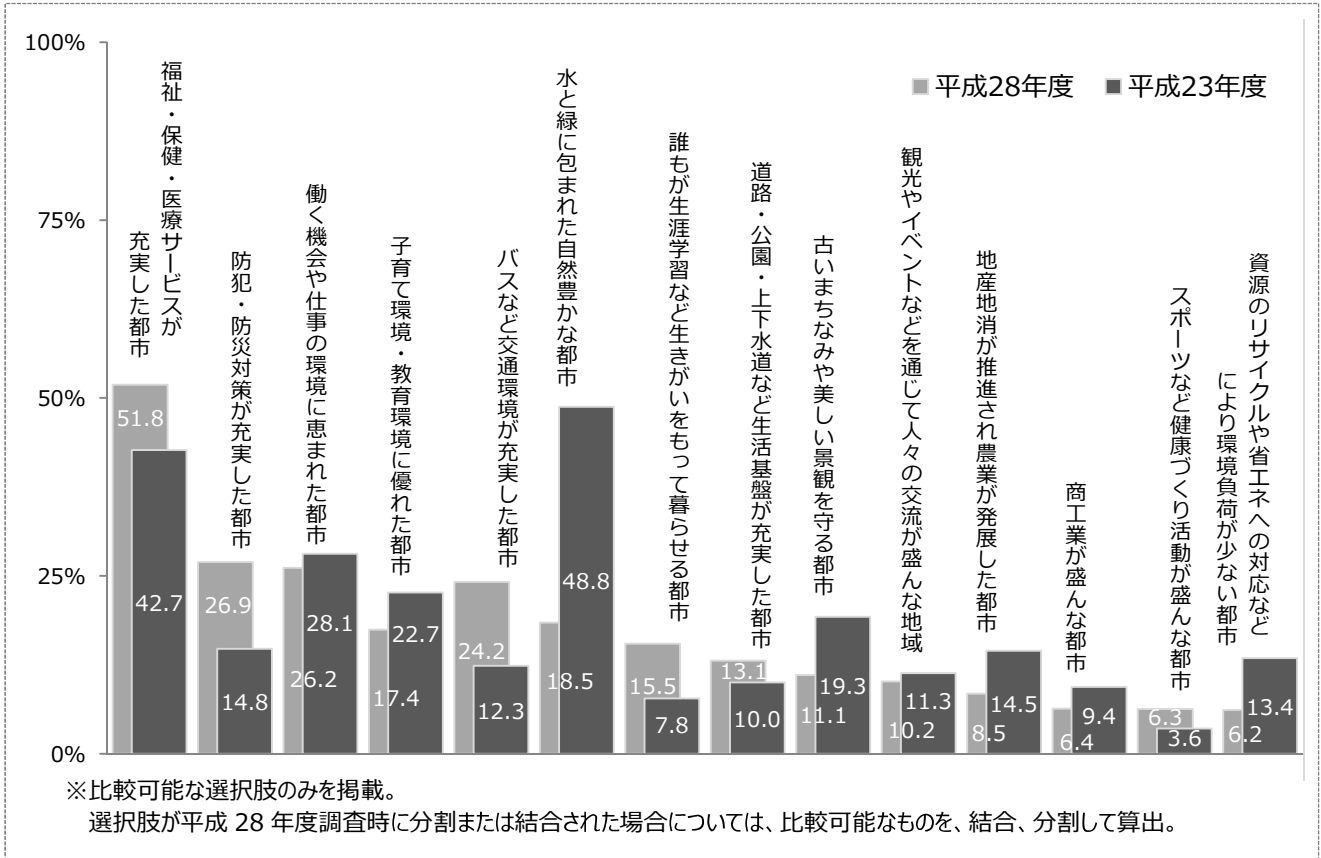


外国人市民をみると、おおよそ 10 年後の岐阜市の将来像について選択された割合が最も高かったものは、「年齢・性別・国籍などにかかわらず、すべての人にやさしい都市」(51.9%)となり、次いで、「働く機会や仕事の環境に恵まれた都市」(39.0%)、「福祉・保健・医療サービスが充実した都市」(37.7%)、「バスなど交通環境が充実した都市」(19.5%)、「観光やイベントなどを通じて人々の交流が盛んな都市」(16.9%)が続いた。



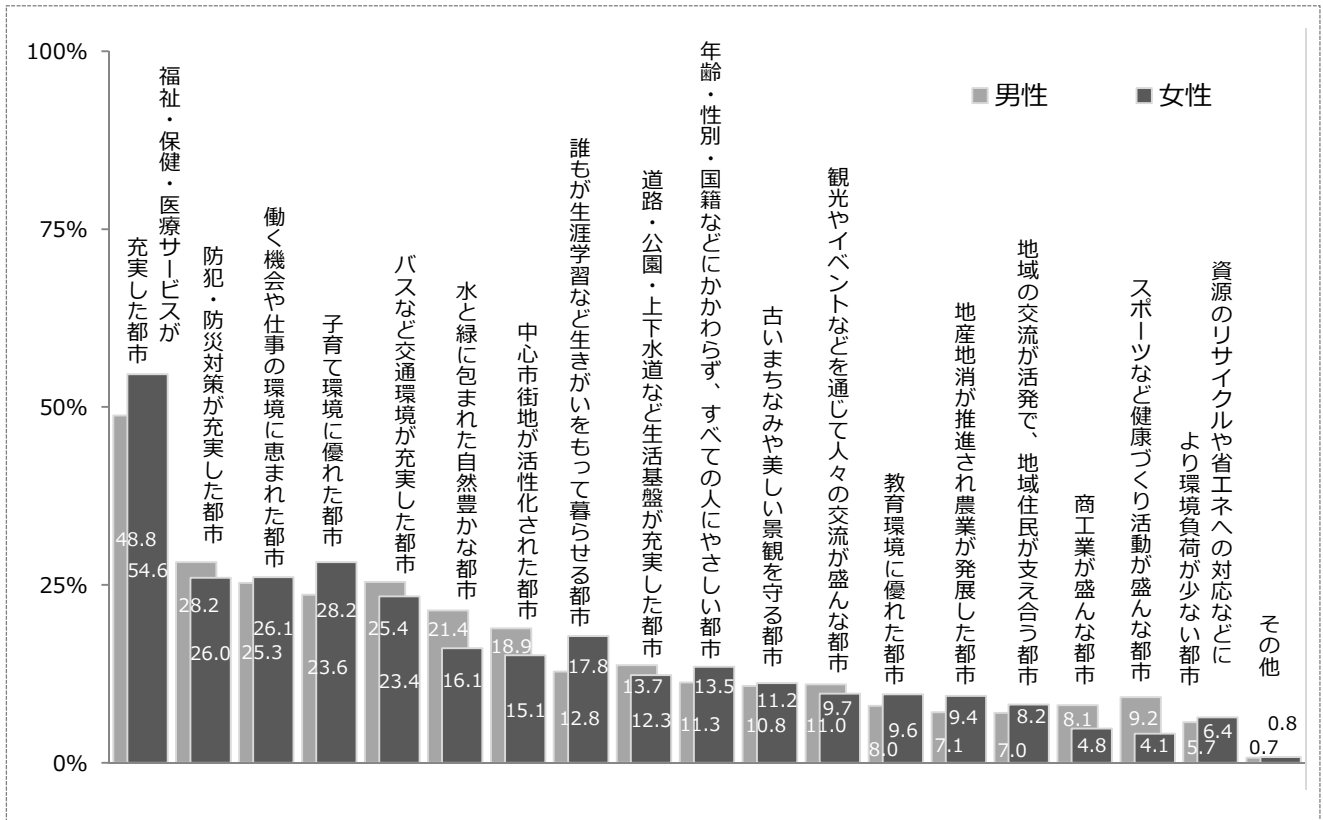
中学生をみると、おおよそ 10 年後の岐阜市の将来像について選択された割合が最も高かったものは、「水と緑に包まれた自然豊かな都市」(31.5%)となり、次いで、「防犯・防災対策が充実した都市」(28.2%)、「古いまちなみや美しい景観を守る都市」(26.6%)が続いた。

平成 23 年度調査結果との比較（一般市民）



平成 23 年度調査と比較してみると、最も選択した割合が増加した将来像は、「防災・防災対策が充実した都市」(12.1 ポイント増(「H23」(14.8%)→「H28」(26.9%))となり、次いで、「バスなど交通環境が充実した都市」(11.9 ポイント増(「H23」(12.3%)→「H28」(24.2%))が続いた。また、最も選択した割合が減少した将来像は、「水と緑に包まれた自然豊かな都市」(30.3 ポイント減(「H23」(48.8%)→「H28」(18.5%))となり、次いで、「古いまちなみや美しい景観を守る都市」(8.2 ポイント減(「H23」(19.3%)→「H28」(11.1%))が続いた。

男女別構成とのクロス集計（一般市民） n=1,055



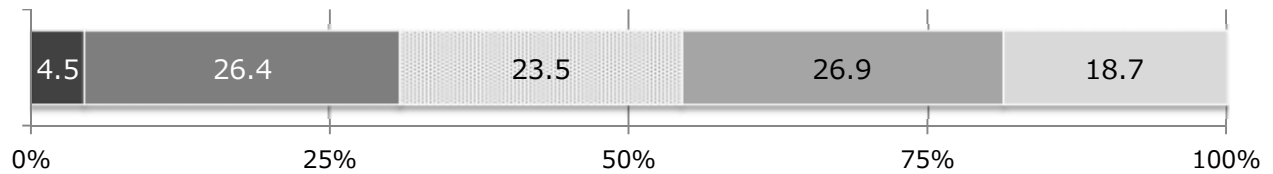
男女別に比較してみると、男性で最も選択した割合が大きい将来像は、「福祉・保健・医療サービスが充実した都市」(48.8%)となり、次いで、「防犯・防災対策が充実した都市」(28.2%)、「働く機会や仕事の環境に恵まれた都市」(25.3%)が続いた。また、女性で最も選択した割合が大きい将来像は、「福祉・保健・医療サービスが充実した都市」(54.6%)となり、次いで、「子育て環境に優れた都市」(28.2%)、「働く機会や仕事の環境に恵まれた都市」(26.1%)が続いた。

## 2 将来の見通し

あなたは 10 年後の生活に明るい見通しを持っていますか。

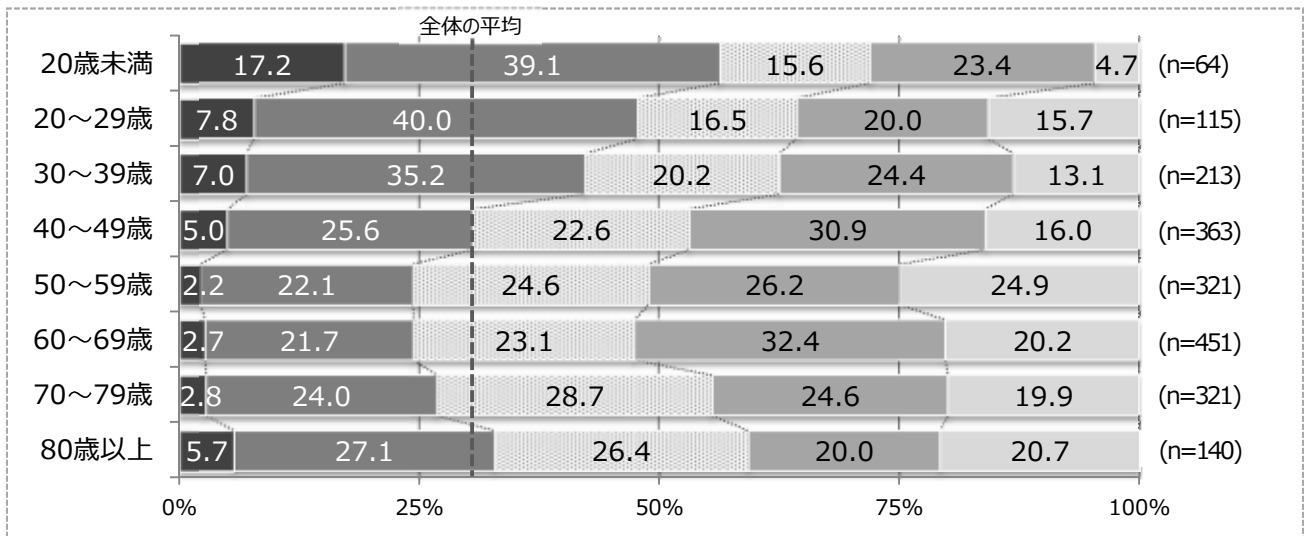
一般市民  
Q73  
n=2,049

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらともいえない ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない



10年後の見通しについては、「そう思う」(4.5%)、「どちらかといえばそう思う」(26.4%)と回答した割合の合計が 30.9%となった。一方で「そう思わない」(18.7%)、「どちらかといえばそう思わない」(26.9%)と回答した割合の合計は 45.6%となった。

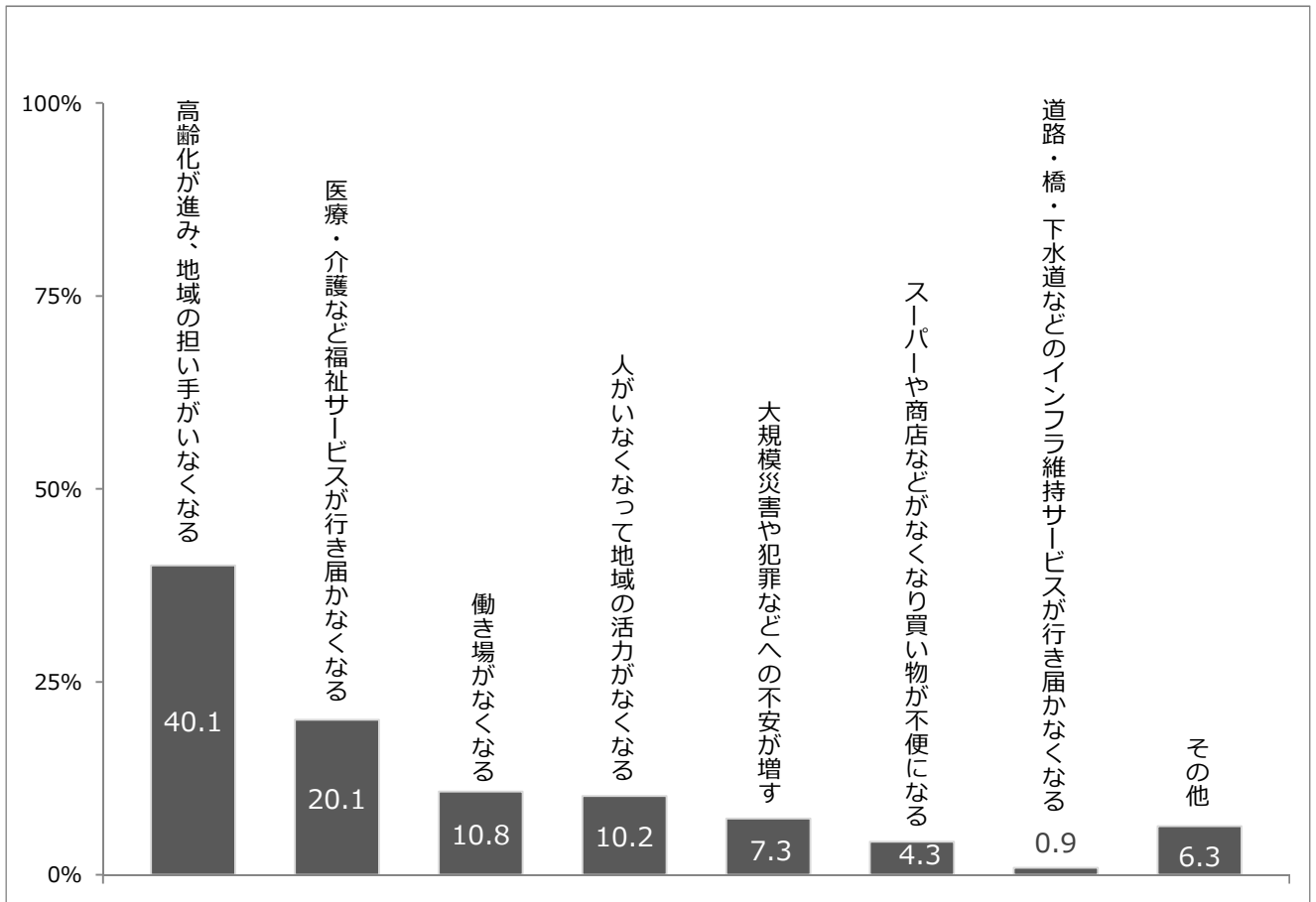
### 年齢階層別構成とのクロス集計 n=1,988



年齢階層別に、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計を全体の平均(30.9%)と比較すると、「20歳未満」(56.3%)、「20～29歳」(47.8%)、「30～39歳以上」(42.2%)が平均を大きく上回り、「80歳以上」(32.8%)でも平均を上回った。一方で「50～59歳」(24.3%)、「60～69歳」(24.4%)、「70～79歳」(26.8%)、「40～49歳」(30.6%)では平均を下回る、または近似した値となった。

(10年後の生活に明るい見通しを持っていると、「思わない」または、「どちらかといえば思わない」と選択された方にお聞きします。)  
 あなたがもっとも不安に感じるものは何ですか。

一般市民  
 Q73 SQ  
 696



もっとも不安に感じるものとして、選択された割合が最も高かったものは、「高齢化が進み地域の担い手がなくなる」(40.1%)となり、次いで、「医療・介護など福祉サービスが行き届かなくなる」(20.1%)、「働き場がなくなる」(10.8%)が続いた。

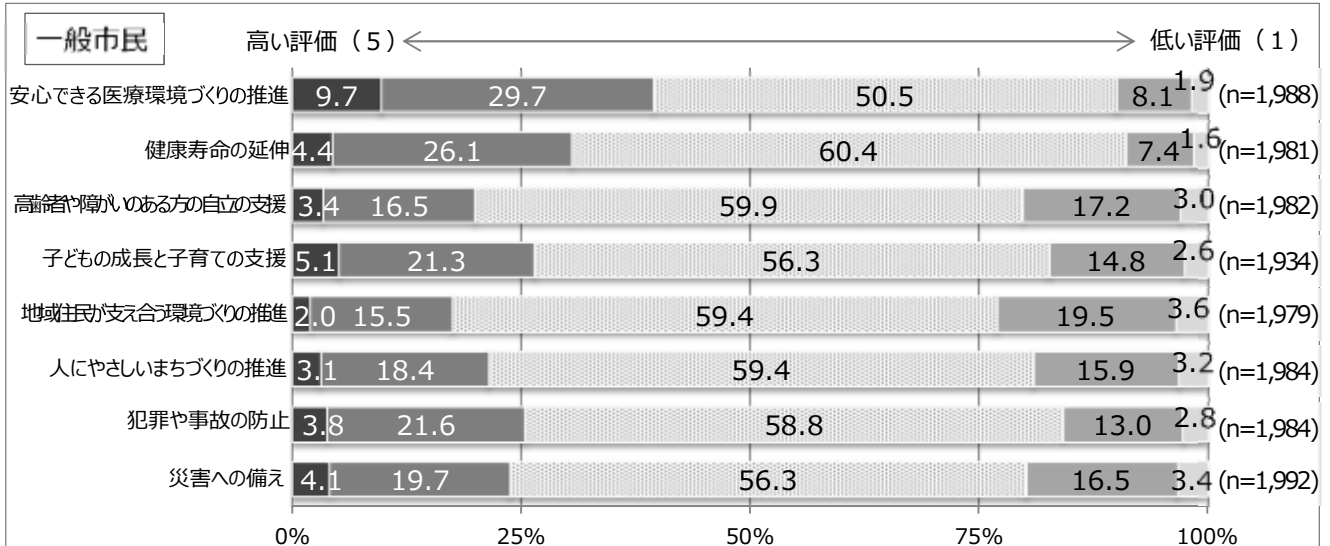
### 3 「安心して暮らせる都市」に係る政策への評価（満足度）、優先度

「安心して暮らせる都市」づくりを進めるために位置付けられた以下の政策（8項目）の評価（満足度）をしてください。

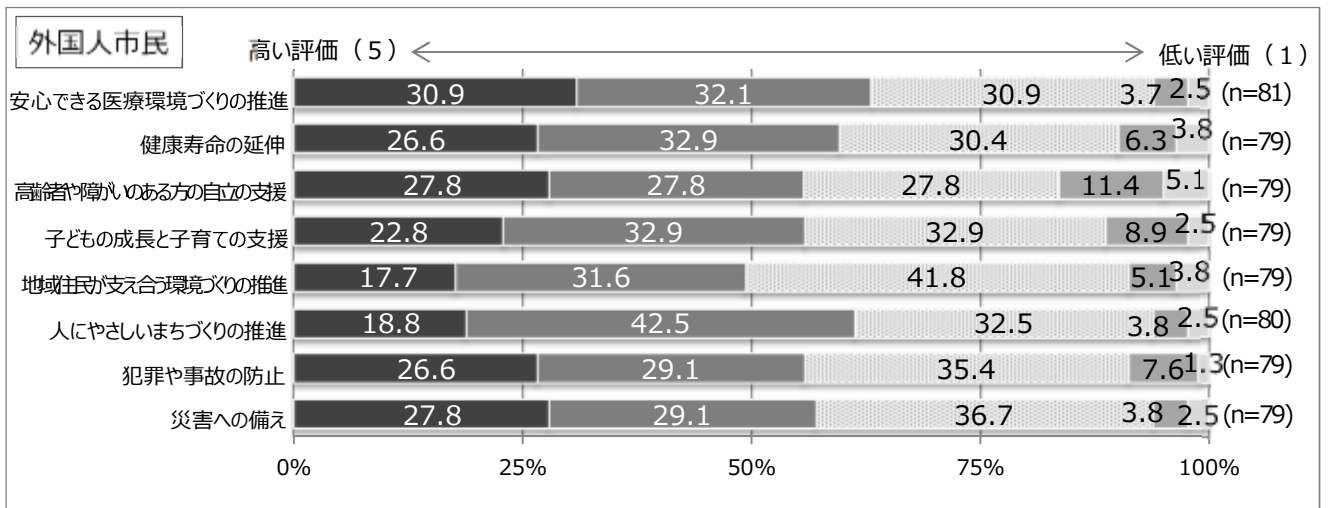
一般市民  
Q64  
—

外国人市民  
Q35  
—

■ 5      ■ 4      ■ 3      ■ 2      ■ 1



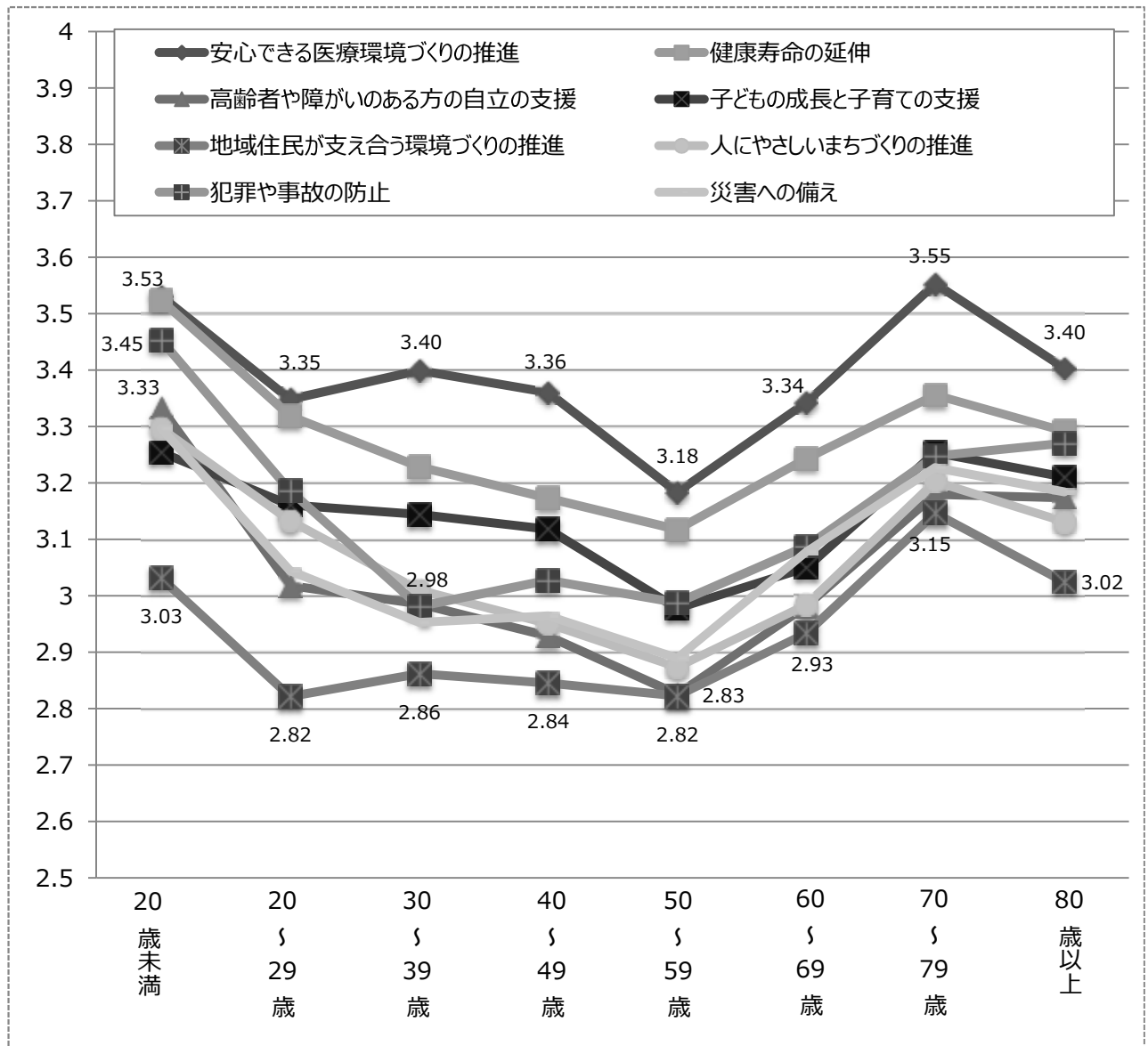
政策の評価(満足度)として、比較的高い評価である「5」、「4」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「安心できる医療環境づくりの推進」(39.4%)となり、次いで「健康寿命の延伸」(30.5%)、「子どもの成長と子育ての支援」(26.4%)が続いた。一方で、比較的低い評価である「1」、「2」を回答した割合の合計が最も高かった政策は「地域住民が支え合う環境づくりの推進」(23.1%)となり、次いで、「高齢者や障がいのある方の自立の支援」(20.2%)、「災害への備え」(19.9%)が続いた。



外国人市民をみると、政策の評価(満足度)として、比較的高い評価である「5」、「4」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「安心できる医療環境づくりの推進」(63.0%)となった。一方で、比較的低い評価である「1」、「2」を回答した割合の合計が最も高かった政策は「高齢者や障がいのある方の自立の支援」(16.5%)となった。

## 年齢階層別の比較(一般市民)

※各選択肢の数値を加重平均し、指数化



年齢階層別に、「安心して暮らせる都市」づくりを進めるために位置付けられた政策の評価(満足度)をみると、すべての年齢で、「安心できる医療環境づくりの推進」が最も高くなった。

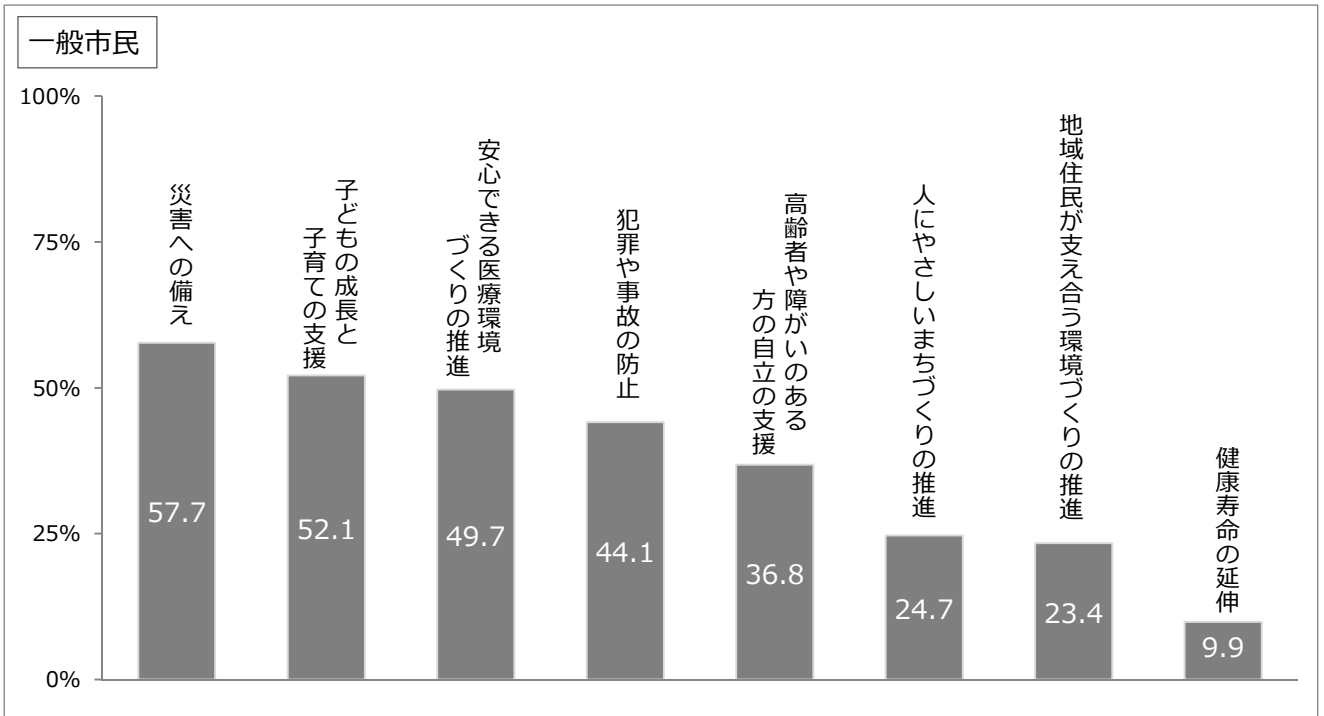
また、年齢階層間の各政策への評価(満足度)の差をみると、最も差が大きかったのは、「高齢者や障がいのある方の自立の支援」(0.50ポイント差(「20歳未満」:3.33 ⇔「50～59歳」:2.83))となり、次いで、「犯罪や事故の防止」(0.47ポイント差(「20歳未満」:3.45 ⇔「30～39歳」:2.98))が続いた。



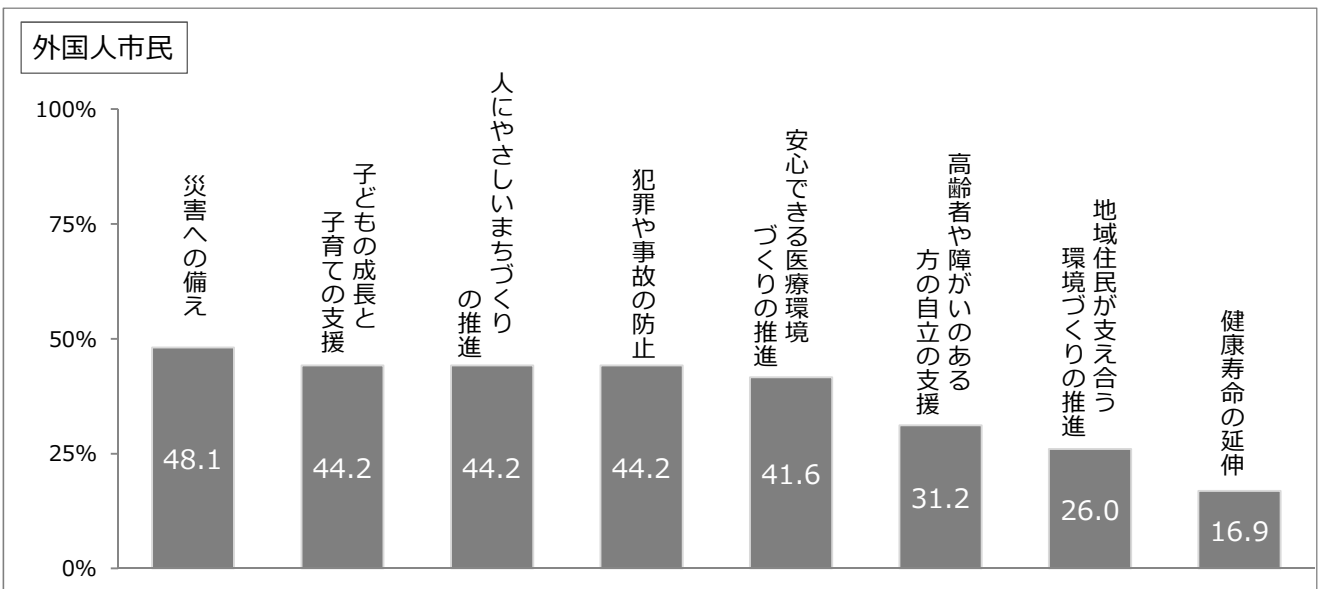
「安心して暮らせる都市」づくりを進めるために位置付けられた政策（8項目）のうち優先すべき政策はどれですか。（3つ選択）

一般市民  
Q65  
n=1,874

外国人市民  
Q36  
n=77

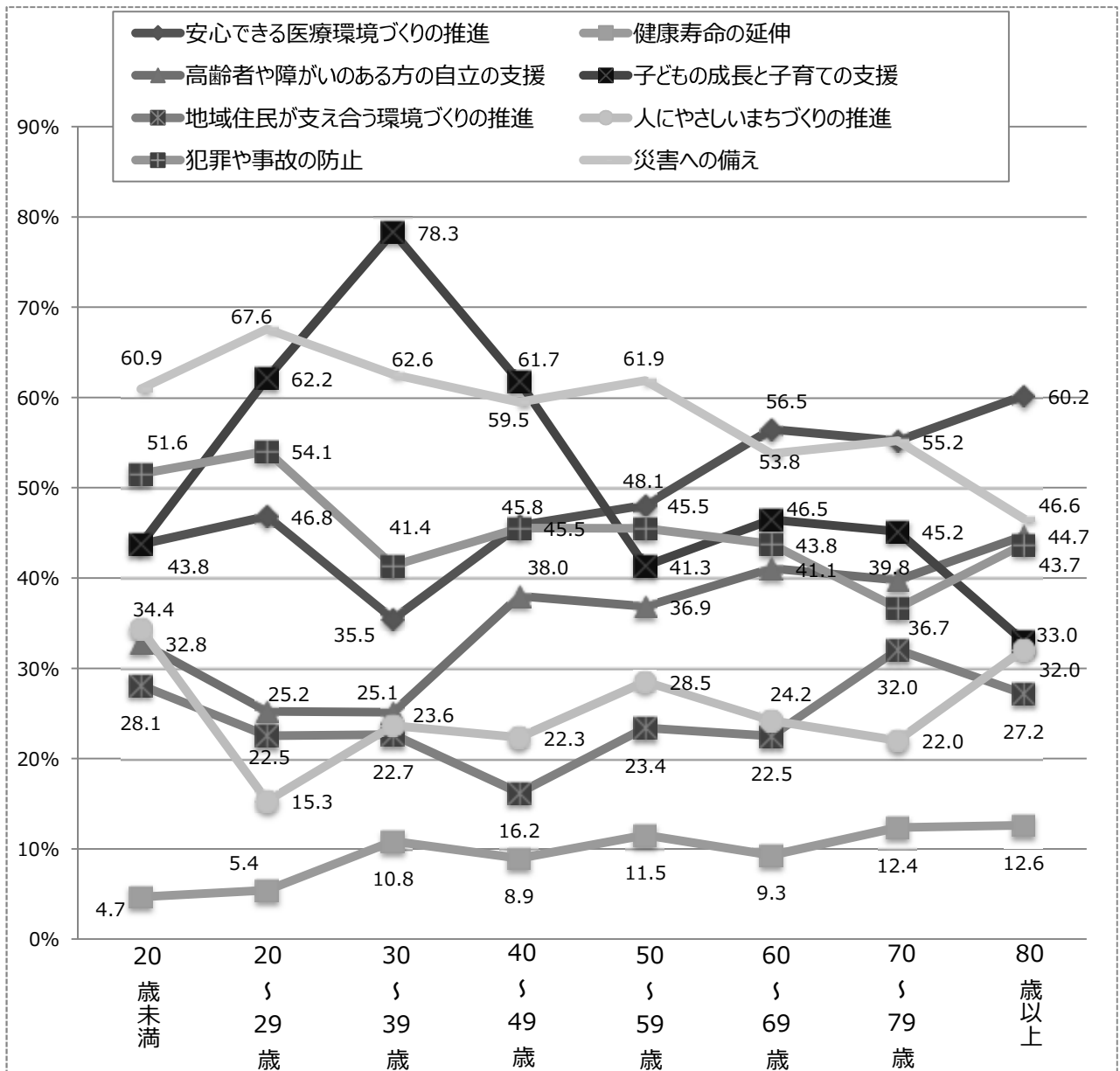


優先すべき政策のうち、選択された割合が最も高かったものは、「災害への備え」(57.7%)となり、次いで、「子どもの成長と子育ての支援」(52.1%)、「安心できる医療環境づくりの推進」(49.7%)、「犯罪や事故の防止」(44.1%)、「高齢者や障がいのある方の自立の支援」(36.8%)が続いた。



外国人市民を見ると、優先すべき政策のうち、選択された割合が最も高かったものは、「災害への備え」(48.1%)となり、次いで、「子どもの成長と子育ての支援」(44.2%)、「人にやさしいまちづくりの推進」(44.2%)、「犯罪や事故の防止」(44.2%)、「安心できる医療環境づくりの推進」(41.6%)が続いた。

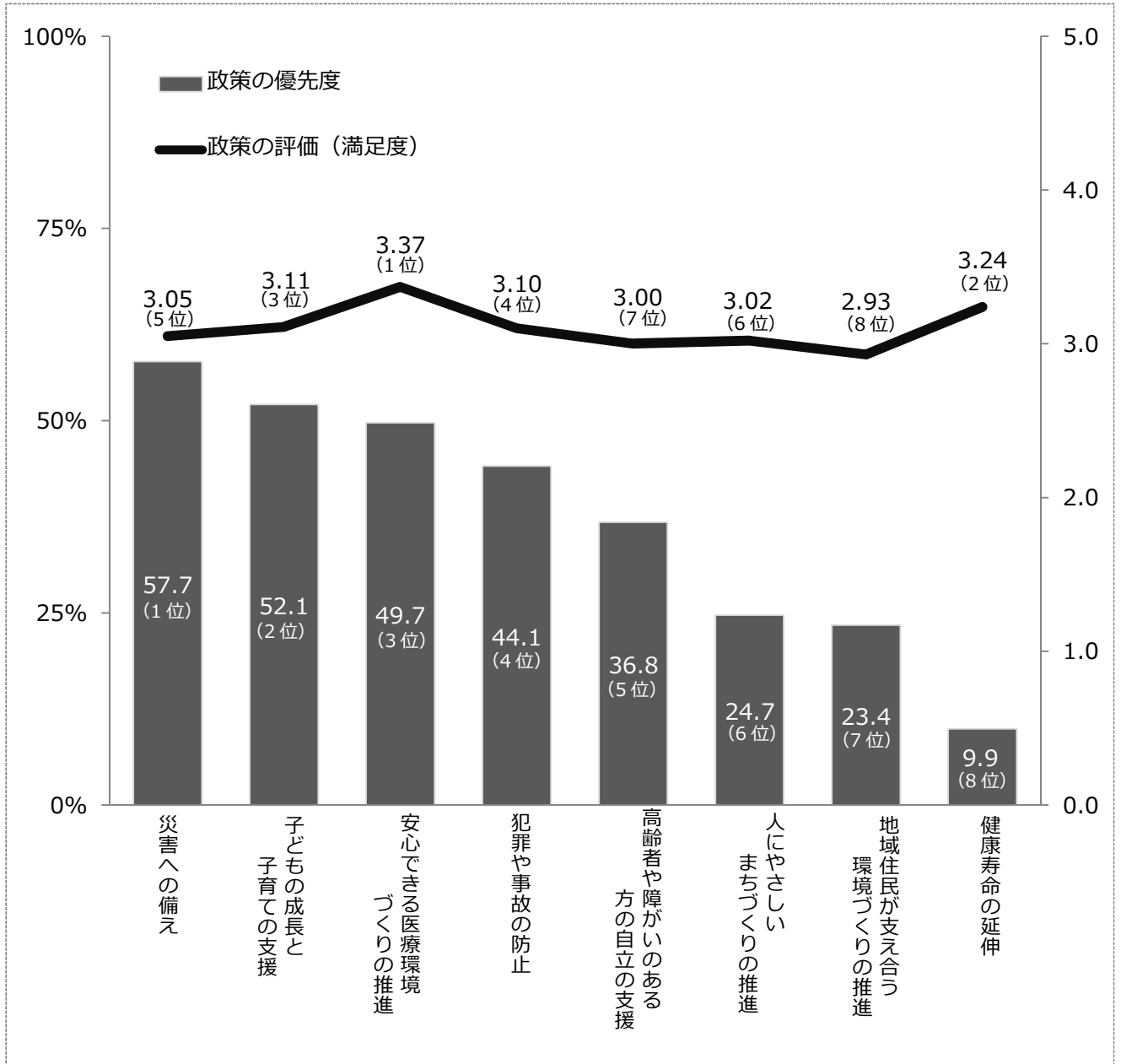
年齢階層対象別の比較（一般市民）



年齢階層別に、「安心して暮らせる都市」づくりを進めるために位置付けられた政策の優先度をみると、優先度が最も高い政策は、「20歳未満」(60.9%)、「20～29歳」(67.6%)、「50～59歳」(61.9%)、「70～79歳」(55.2%、一位重複)においては、「災害への備え」、「30～39歳」(78.3%)、「40～49歳」(61.7%)においては、「子どもの成長と子育ての支援」、「60～69歳」(56.5%)、「70～79歳」(55.2%、一位重複)、「80歳以上」(60.2%)においては、「安心できる医療環境づくりの推進」となった。

政策の評価（満足度）と優先度（一般市民）

※現状の評価（満足度）は、各選択肢の数値を加重平均し、指数化



「安心して暮らせる都市」づくりを進めるための8項目の政策間における、現状の評価(満足度)の順位と政策の優先度の順位の差をみると、評価の差が最も大きくなったものは、「健康寿命の延伸」(政策の優先度:8位、現状の評価(満足度):2位)となった。

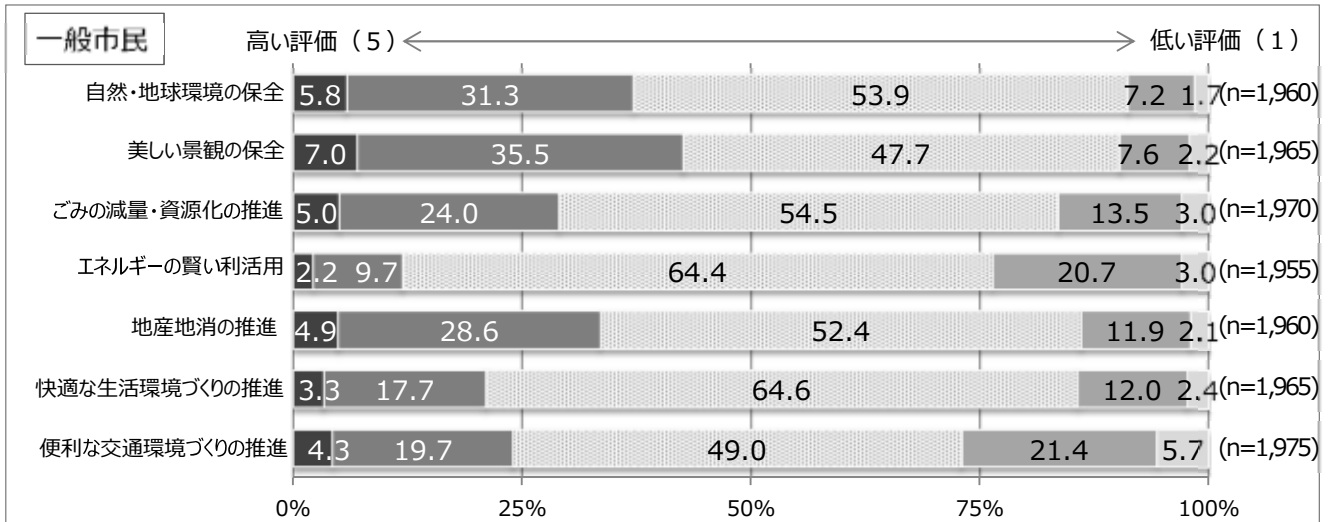
#### 4 「便利で快適な都市」に係る政策への評価（満足度）、優先度

「便利で快適な都市」づくりを進めるために位置付けられた以下の政策（7項目）の評価（満足度）をしてください。

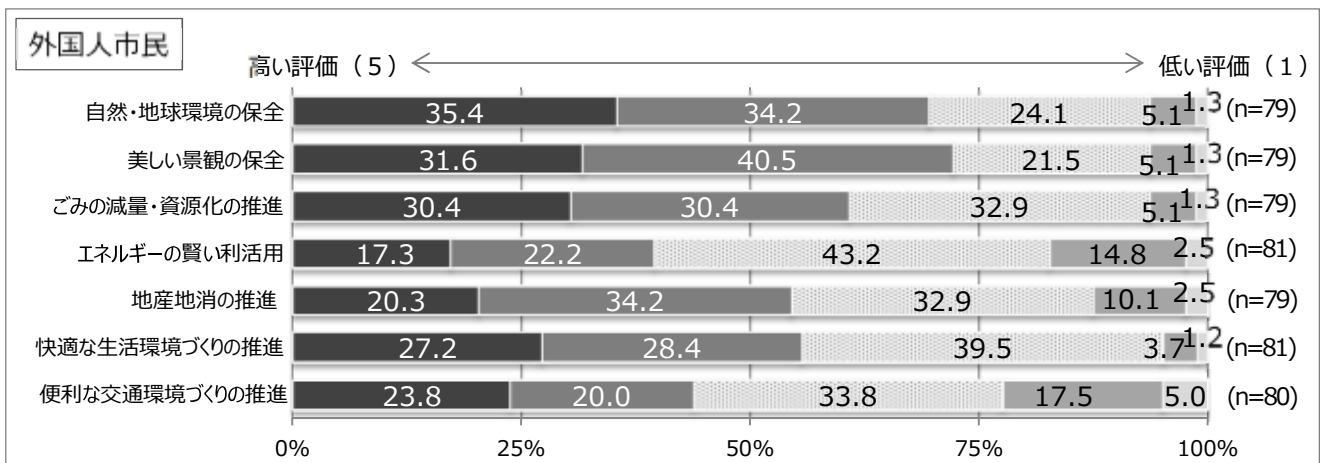
一般市民  
Q66

外国人市民  
Q37

5 4 3 2 1



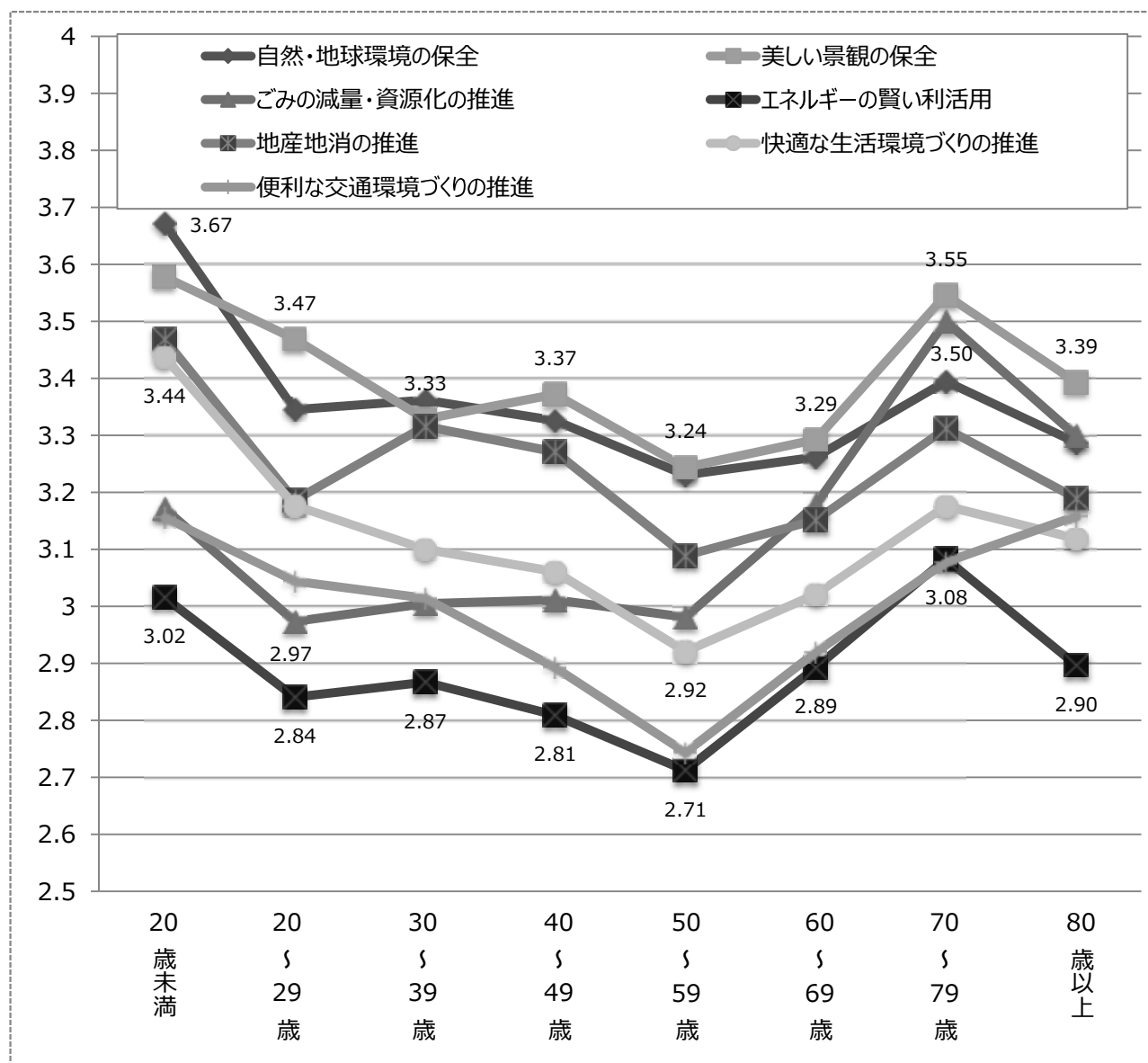
政策の評価（満足度）として、比較的高い評価である「5」、「4」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「美しい景観の保全」（42.5%）となり、次いで、「自然・地球環境の保全」（37.1%）、「地産地消の推進」（33.5%）が続いた。一方で、比較的低い評価である「1」、「2」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「便利な交通環境づくりの推進」（27.1%）となり、次いで、「エネルギーの賢い利活用」（23.7%）、「ごみの減量・資源化の推進」（16.5%）が続いた。



外国人市民をみると、政策の評価（満足度）として、比較的高い評価である「5」、「4」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「美しい景観の保全」（72.1%）となった。一方で、比較的低い評価である「1」、「2」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「便利な交通環境づくりの推進」（22.5%）となった。

年齢階層別の比較(一般市民)

※各選択肢の数値を加重平均し、指数化



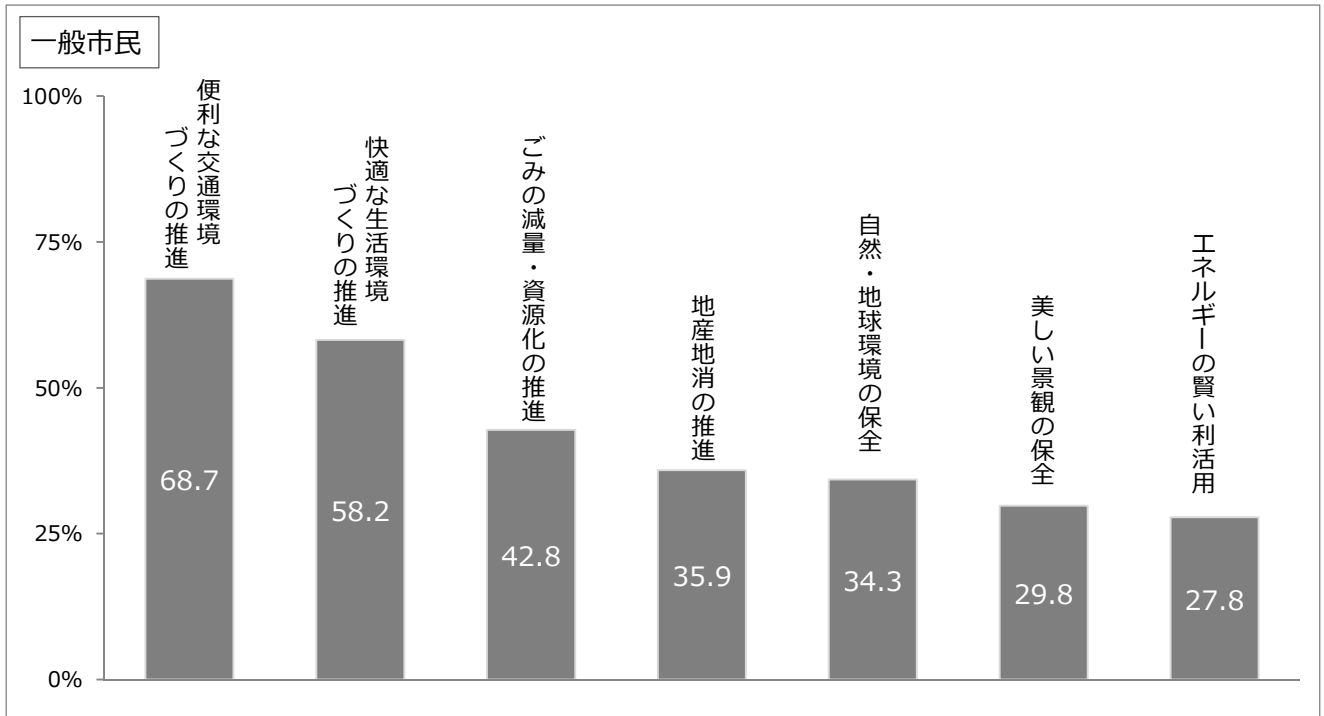
年齢階層別に、「便利で快適な都市」づくりを進めるために位置付けられた政策の評価(満足度)をみると、最も高くなった政策は、「20歳未満」、「30～39歳」で「自然・地球環境の保全」となり、それ以外の年齢階層では、「美しい景観の保全」となった。

また、年齢階層間の各政策への評価(満足度)の差をみると、最も差が大きかったのは、「ごみの減量・資源化の推進」(0.53ポイント差(「20～29歳」:2.97 ⇔「70～79歳」:3.50))となり、次いで、「快適な生活環境づくりの推進」(0.52ポイント差(「50～59歳」:2.92 ⇔「20歳未満」:3.44))が続いた。

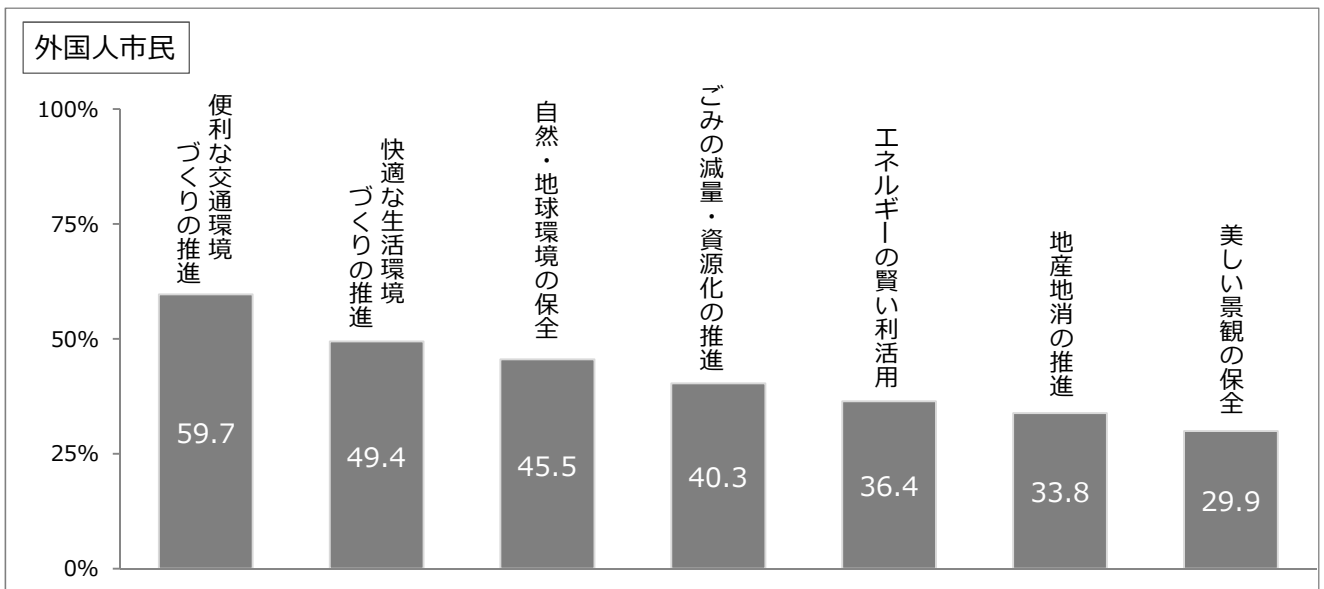
「便利で快適な都市」づくりを進めるために位置付けられた  
政策（7項目）のうち優先すべき政策はどれですか。（3つ選択）

一般市民  
Q67  
n=1,889

外国人市民  
Q38  
n=77

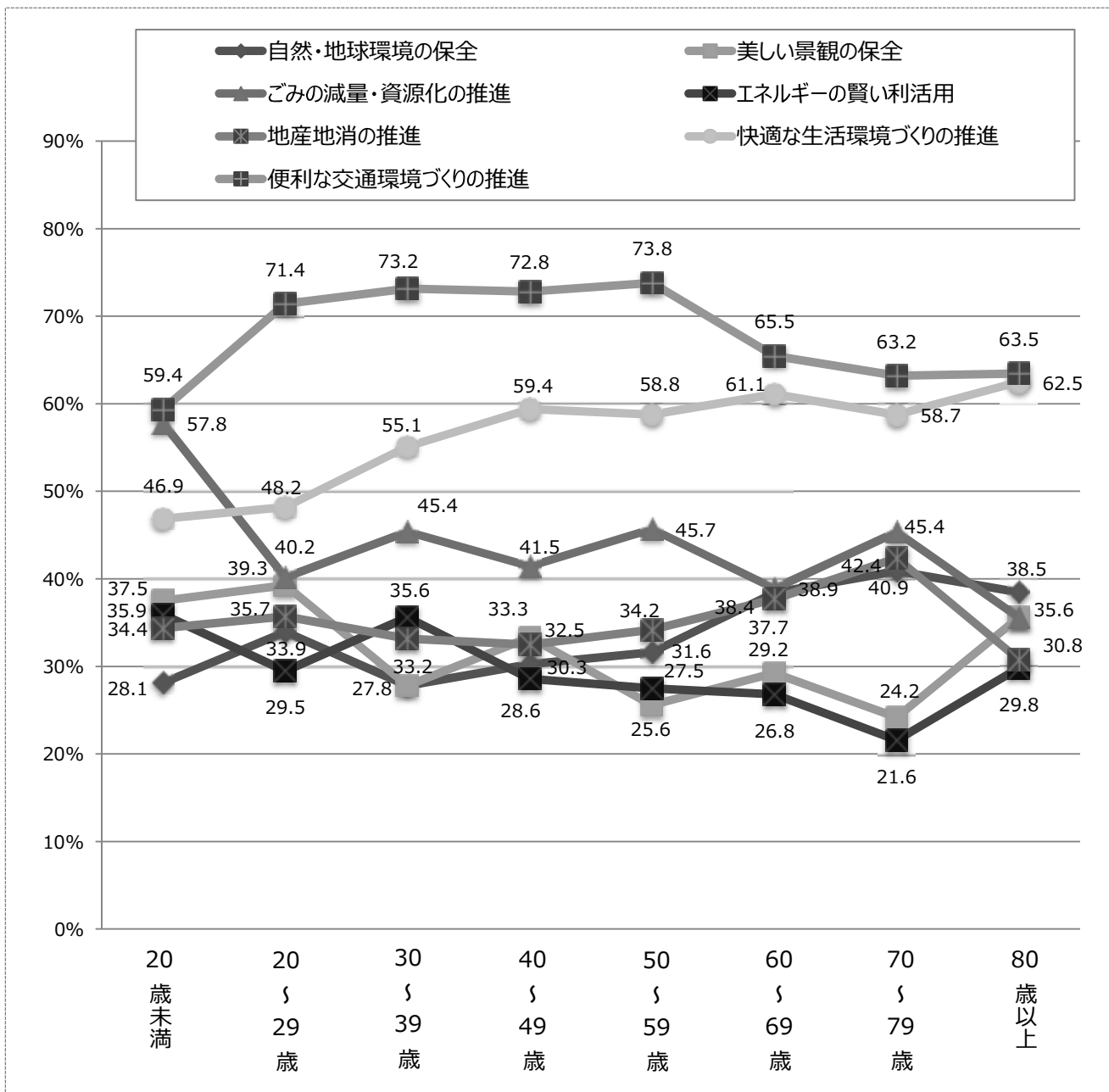


優先すべき政策のうち、選択された割合が最も高かったものは、「便利な交通環境づくりの推進」(68.7%)となり、次いで、「快適な生活環境づくりの推進」(58.2%)、「ごみの減量・資源化の推進」(42.8%)、「地産地消の推進」(35.9%)、「自然・地球環境の保全」(34.3%)が続いた。



外国人市民を見ると、優先すべき政策のうち、選択された割合が最も高かったものは、「便利な交通環境づくりの推進」(59.7%)となり、次いで、「快適な生活環境づくりの推進」(49.4%)、「自然・地球環境の保全」(45.5%)、「ごみの減量・資源化の推進」(40.3%)、「エネルギーの賢い利活用」(36.4%)が続いた。

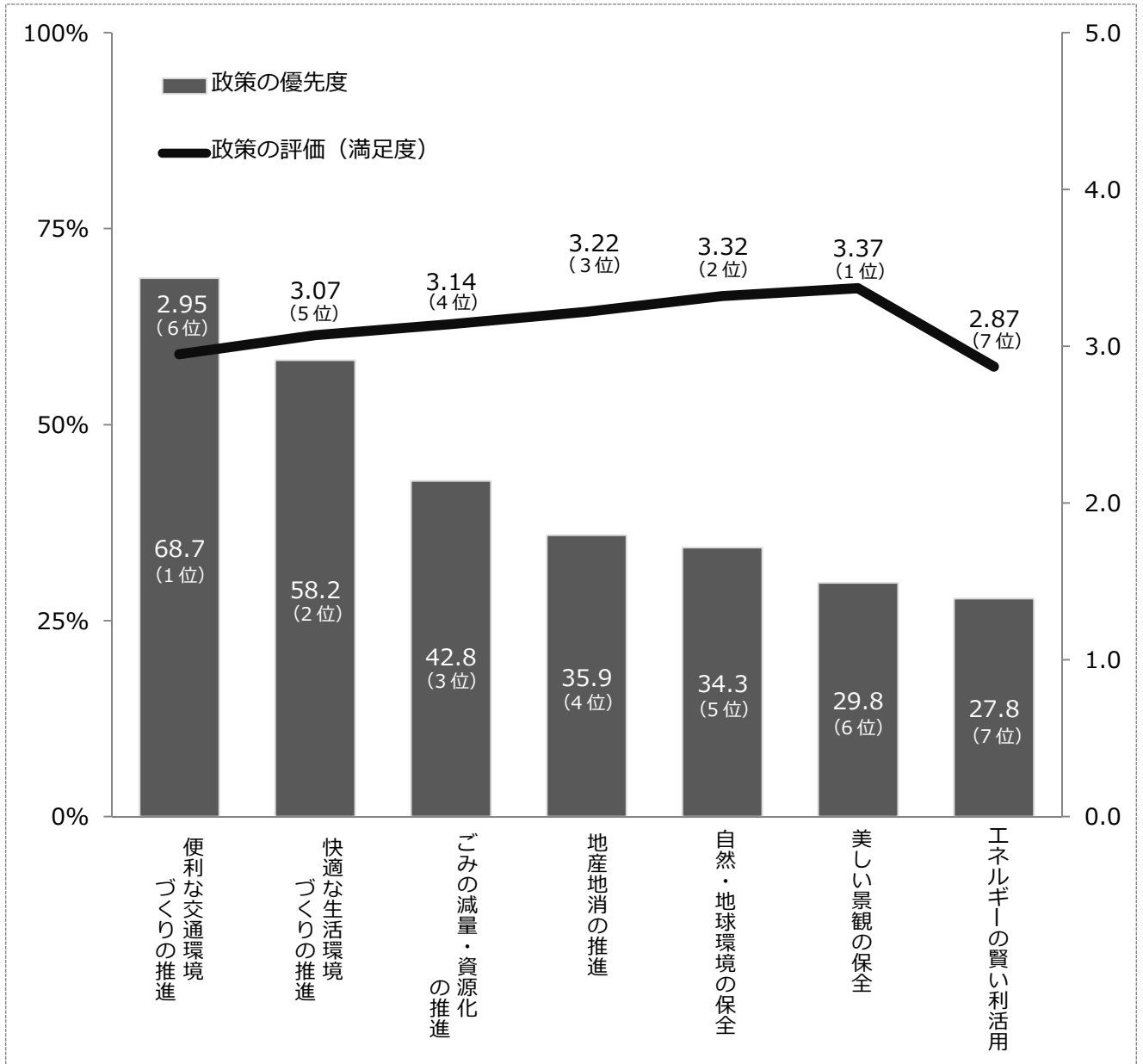
年齢階層対象別の比較（一般市民）



年齢階層別に、「便利で快適な都市」づくりを進めるために位置付けられた政策の優先度をみると、優先度が最も高い政策は全年齢階層において「便利で快適な都市づくりの推進」となった。

政策の評価（満足度）と優先度（一般市民）

※現状の評価（満足度）は、各選択肢の数値を加重平均し、指数化



「便利で快適な都市」づくりを進めるための7項目の政策間における、現状の評価(満足度)の順位と政策間における優先度の順位の差をみると、評価の差が最も大きくなったものは、「便利な交通環境づくりの推進」(優先度:1位、現状の評価(満足度):6位)と、「美しい景観の保全」(優先度:6位、現状の評価(満足度):1位)となった。



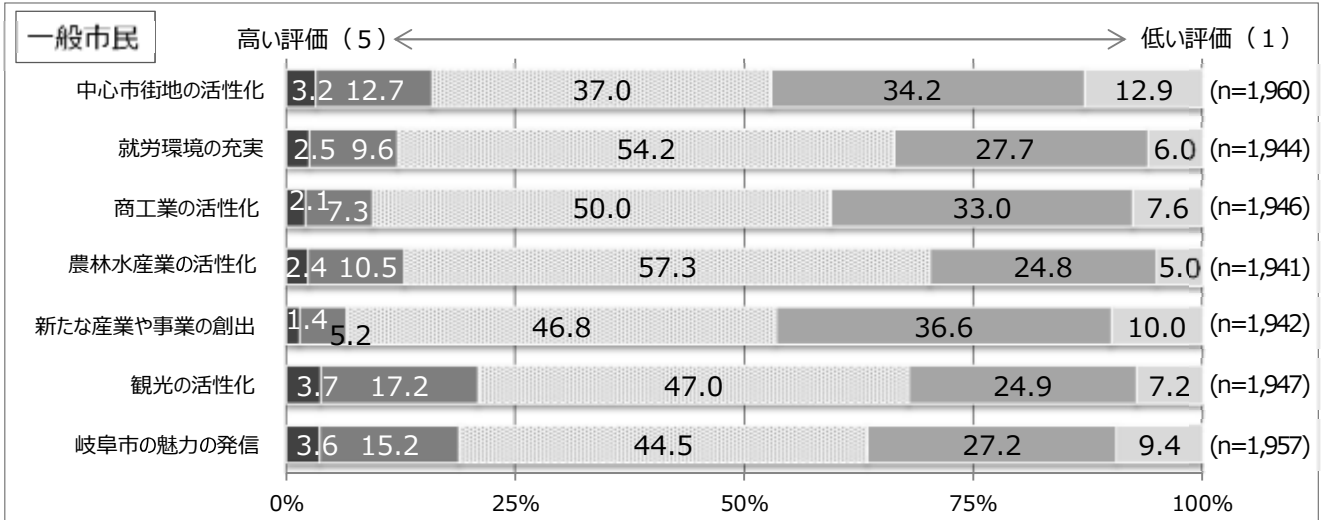
## 5 「活力のある都市」に係る政策への評価（満足度）、優先度

「活力のある都市」づくりを進めるために位置付けられた以下の政策（7項目）の評価（満足度）をしてください。

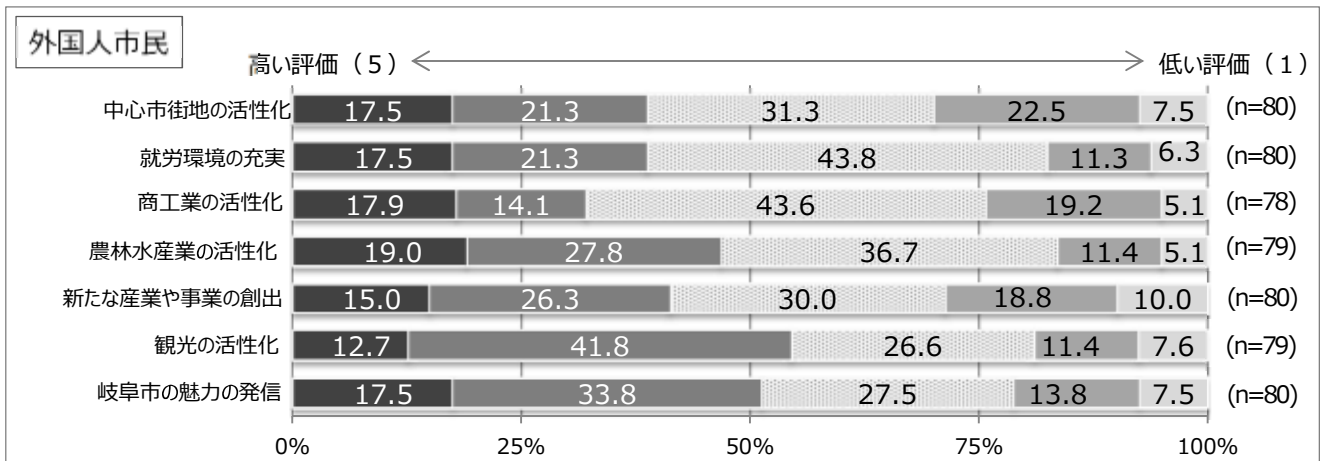
一般市民  
Q68  
-

外国人市民  
Q39  
-

■ 5      ■ 4      ■ 3      ■ 2      ■ 1



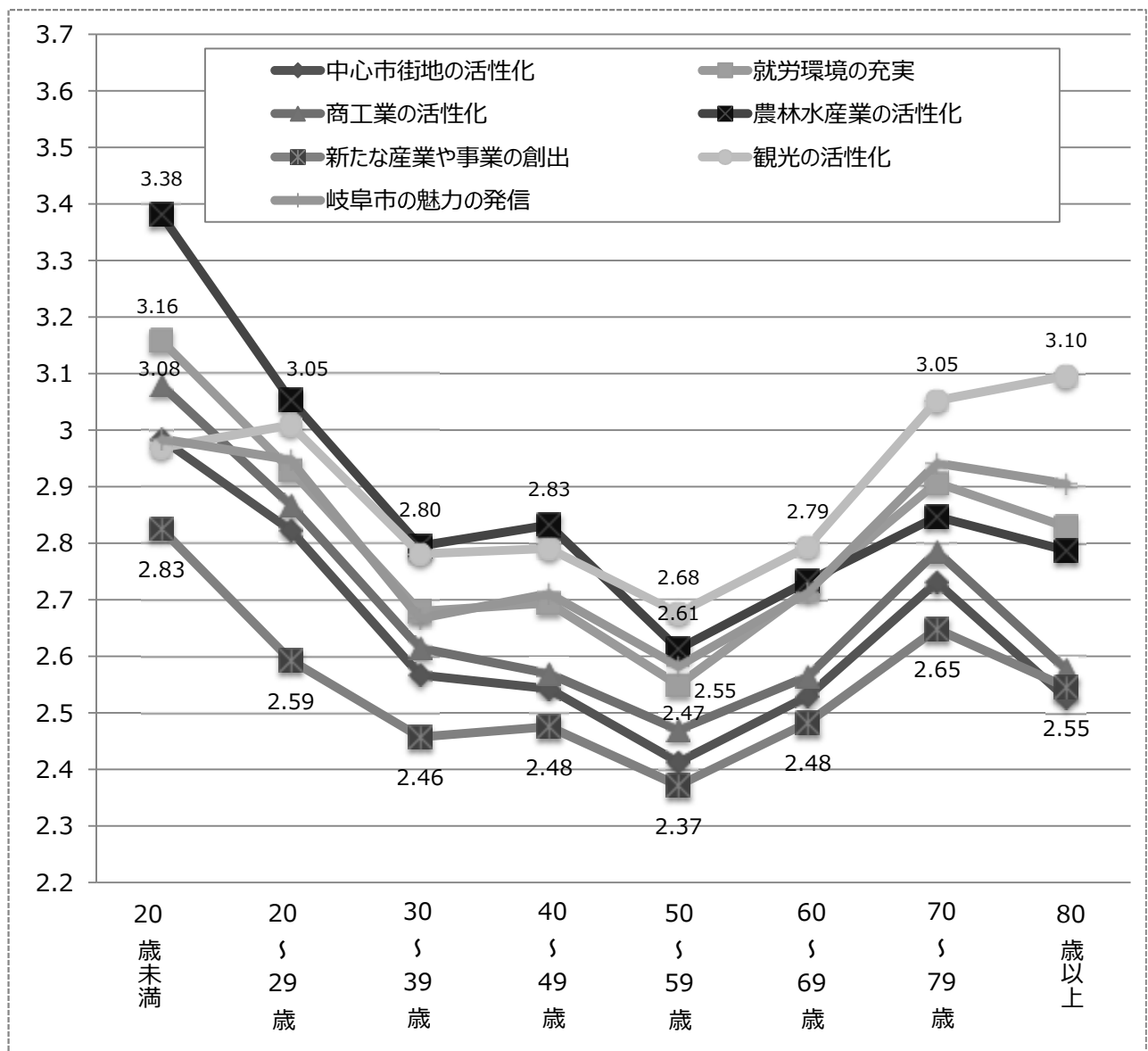
政策の評価（満足度）として、比較的高い評価である「5」、「4」を回答した割合の合計が最も高かった政策は「観光の活性化」（20.9%）となり、次いで、「岐阜市の魅力の発信」（18.8%）、「中心市街地の活性化」（15.9%）が続いた。一方で、比較的低い評価である「1」、「2」を回答した割合の合計が最も高かった政策は「中心市街地の活性化」（47.1%）となり、次いで「新たな産業や事業の創出」（46.6%）、「商工業の活性化」（40.6%）が続いた。



外国人市民をみると、政策の評価（満足度）として、比較的高い評価である「5」、「4」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「観光の活性化」（54.5%）となった。一方で、比較的低い評価である「1」、「2」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「中心市街地の活性化」（30.0%）となった。

## 年齢階層別の比較(一般市民)

※各選択肢の数値を加重平均し、指数化



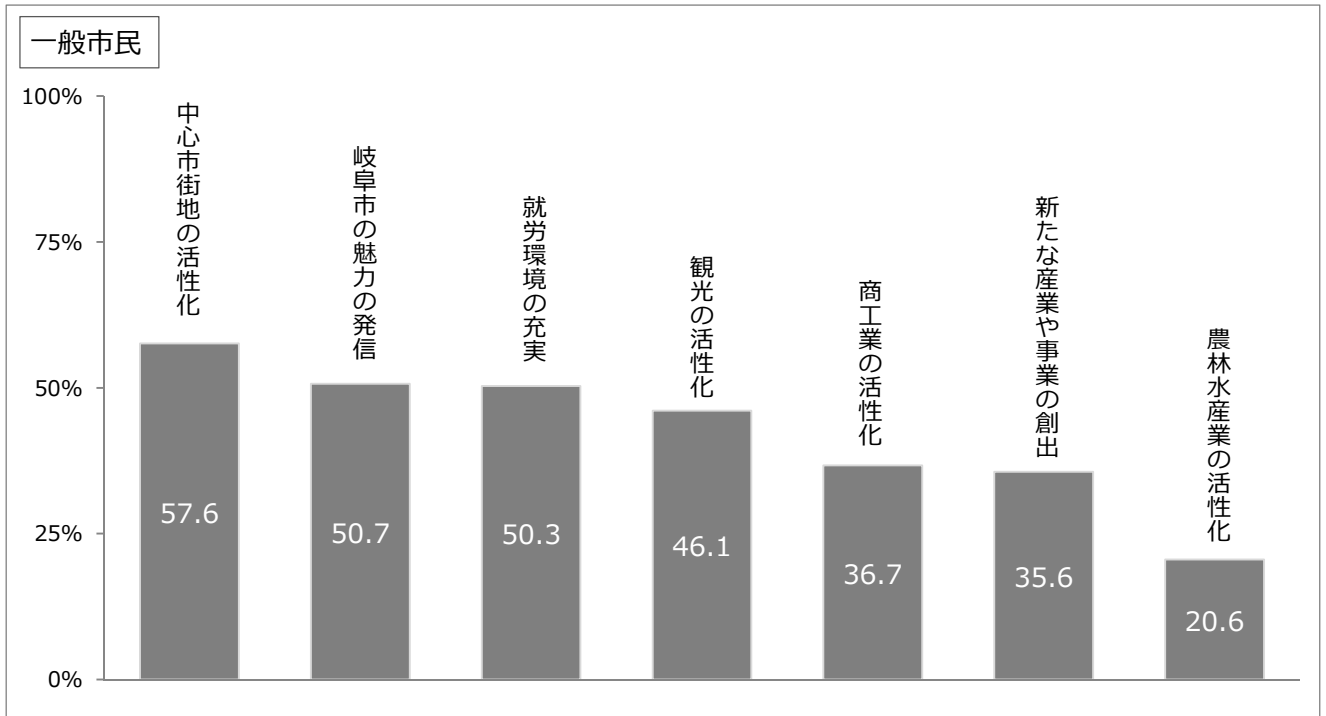
年齢階層別に、「活力あふれる都市」づくりを進めるために位置付けられた政策の評価(満足度)をみると、最も高くなった政策は、「20歳未満」、「20～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」で「農林水産業の活性化」となり、「50～59歳」、「60～69歳」、「70～79歳」、「80歳以上」で「観光の活性化」となった。

また、年齢階層間の各政策への評価(満足度)の差をみると、最も差が大きかったのは、「農林水産業の活性化」(0.77ポイント差(「20歳未満」:3.38 ⇔「50～59歳」:2.61))となり、次いで、「就労環境の充実」(0.61ポイント差(「20歳未満」:3.16 ⇔「50～59歳」:2.55))、「商工業の活性化」(0.61ポイント差(「20歳未満」:3.08 ⇔「50～59歳」:2.47))が続いた。

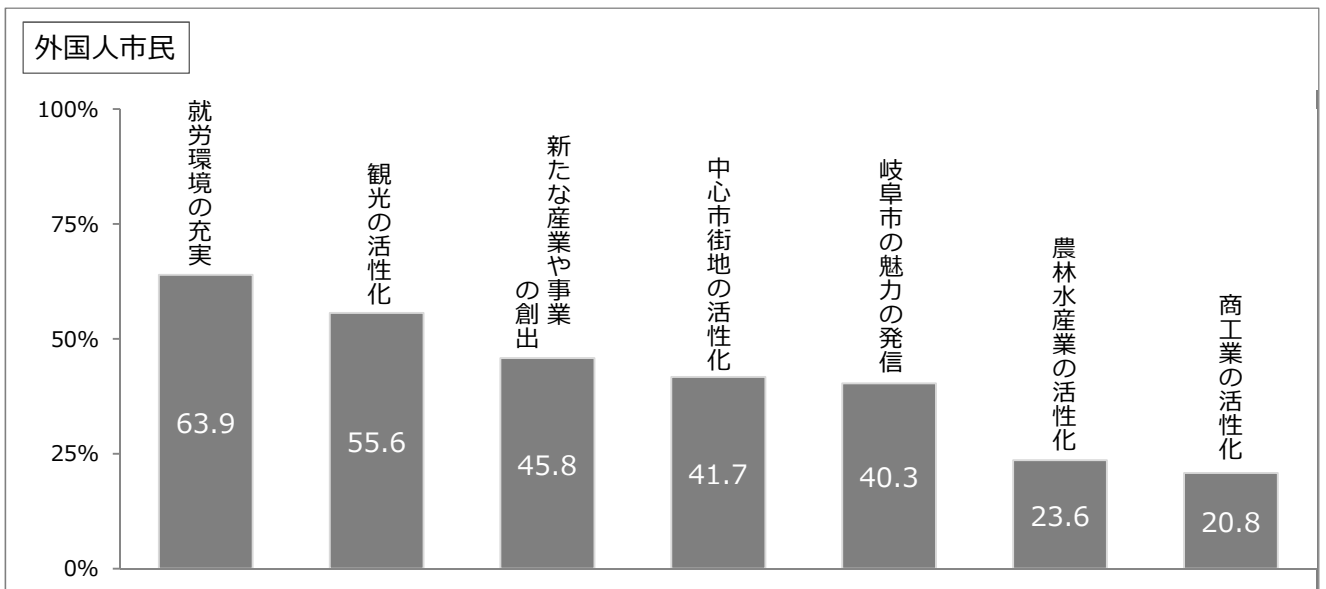
「活力のあふれる都市」づくりを進めるために位置付けられた政策（7項目）のうち優先すべき政策はどれですか。（3つ選択）

一般市民  
Q69  
n=1,894

外国人市民  
Q40  
n=72

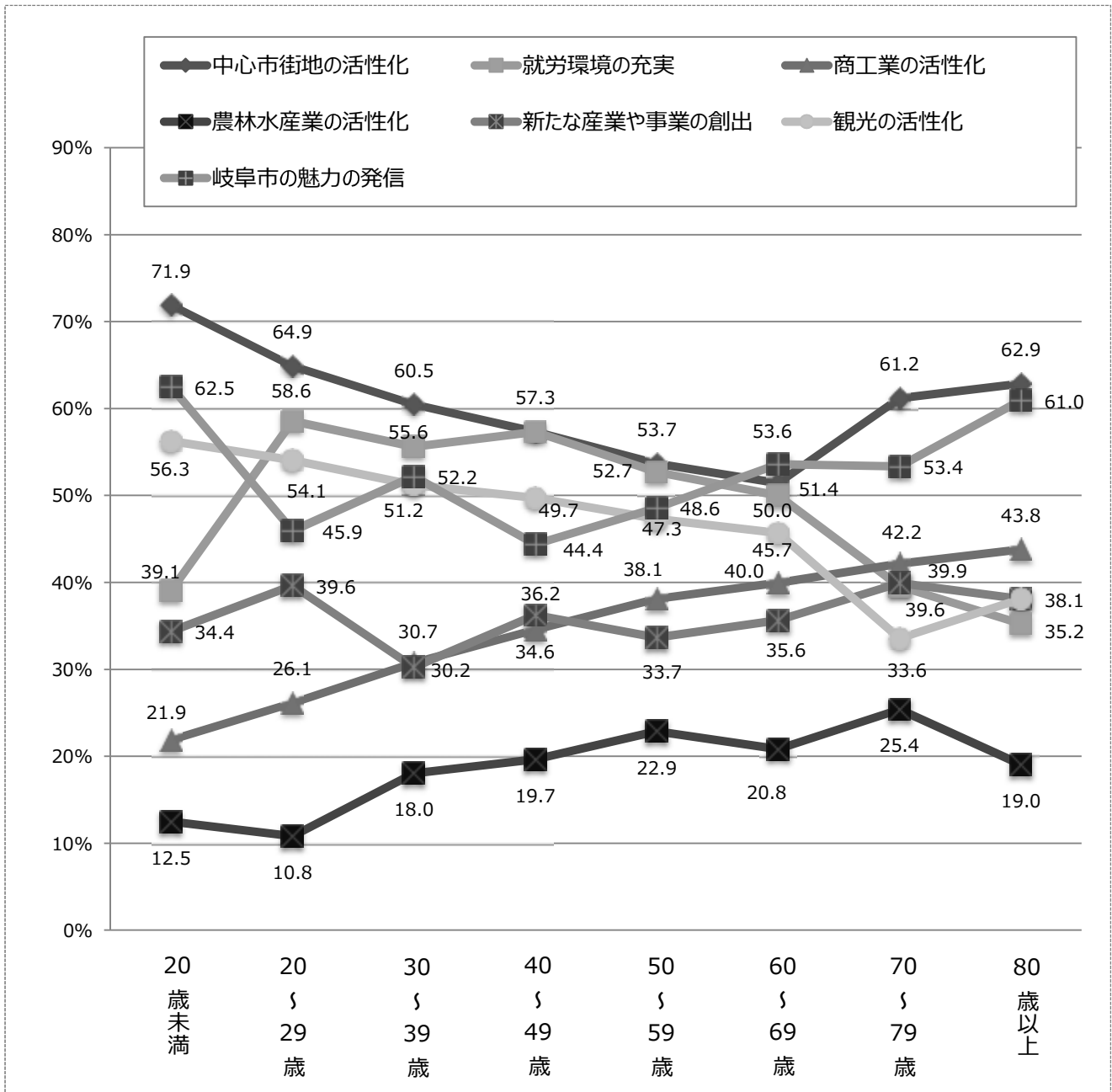


優先すべき政策のうち、選択された割合が最も高かったものは、「中心市街地の活性化」(57.6%)となり、次いで、「岐阜市の魅力の発信」(50.7%)、「就労環境の充実」(50.3%)、「観光の活性化」(46.1%)、「商工業の活性化」(36.7%)が続いた。



外国人市民を見ると、優先すべき政策のうち、選択された割合が最も高かったものは、「就労環境の充実」(63.9%)となり、次いで、「観光の活性化」(55.6%)、「新たな産業や事業の創出」(45.8%)、「中心市街地の活性化」(41.7%)、「岐阜市の魅力の発信」(40.3%)が続いた。

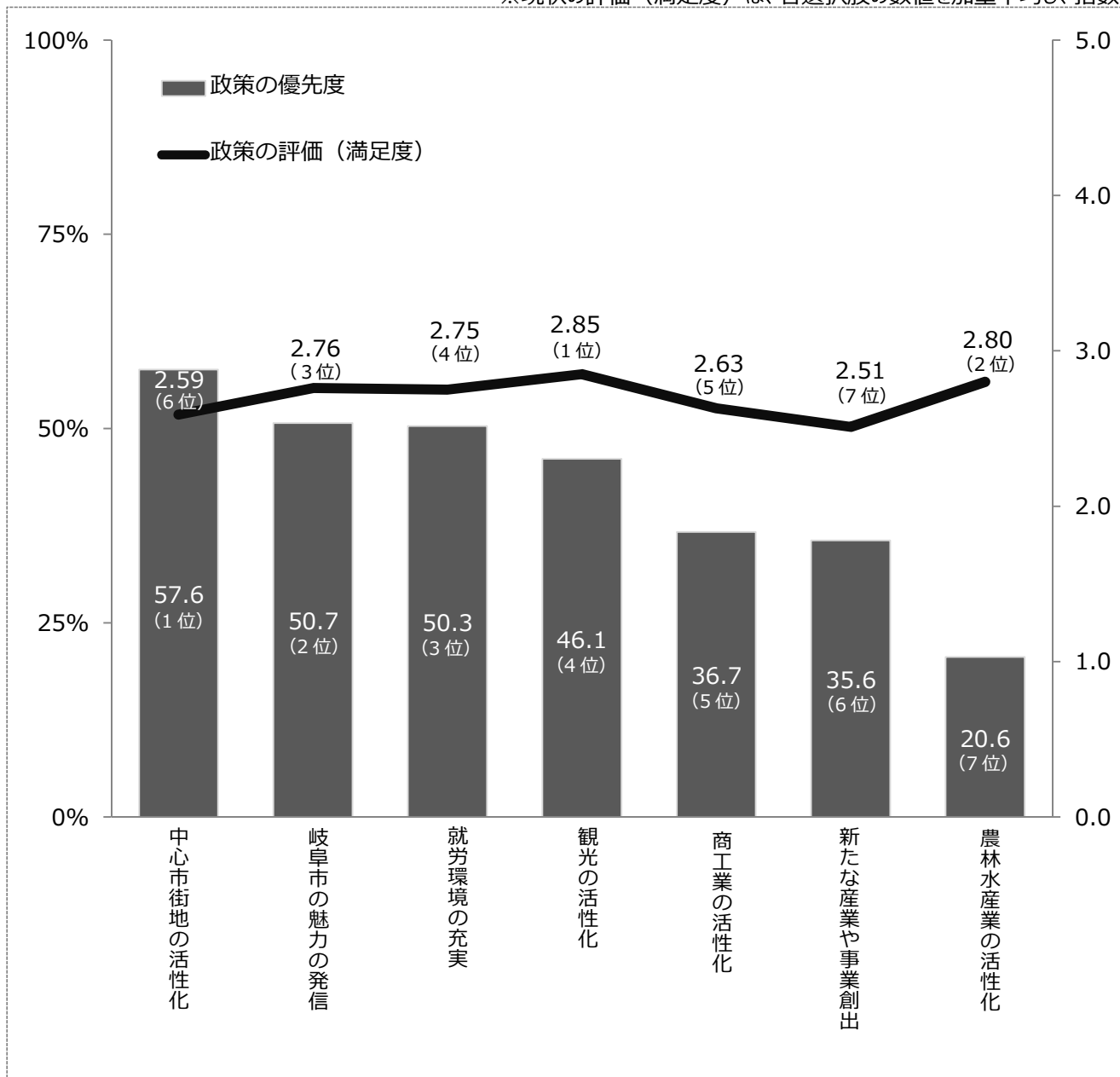
年齢階層対象別の比較（一般市民）



年齢階層別に、「活力のあふれる都市」づくりを進めるために位置付けられた政策の優先度をみると、優先度が最も高い政策は、「60～69歳」においては「岐阜市の魅力の発信」(53.6%)、「40～49歳」においては「就労環境の充実」(57.3%、一位重複)、その他の年齢階層(「40～49歳」の重複分含む)においては「中心市街地の活性化」となった。

政策の評価（満足度）と優先度（一般市民）

※現状の評価（満足度）は、各選択肢の数値を加重平均し、指数化



「活力のあふれる都市」づくりを進めるための7項目の政策間における、現状の評価(満足度)の順位と政策間における優先度の順位の違いをみると、評価の差が最も大きくなったものは、「中心市街地の活性化」(優先度:1位、現状の評価(満足度):6位)、「農林水産業の活性化」(優先度:7位、現状の評価(満足度):2位)となった。

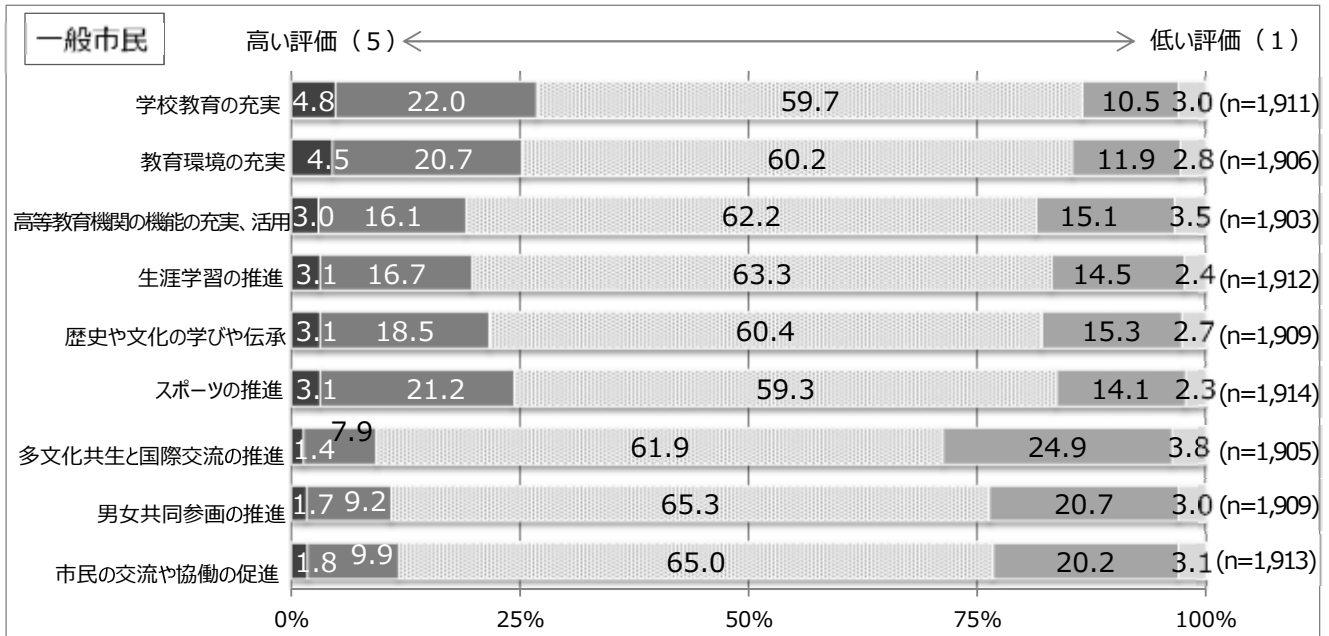
## 6 「人生を楽しむ都市」に係る政策への評価（満足度）、優先度

「人生を楽しむ都市」づくりを進めるために位置付けられた以下の政策（9項目）の評価（満足度）をしてください。

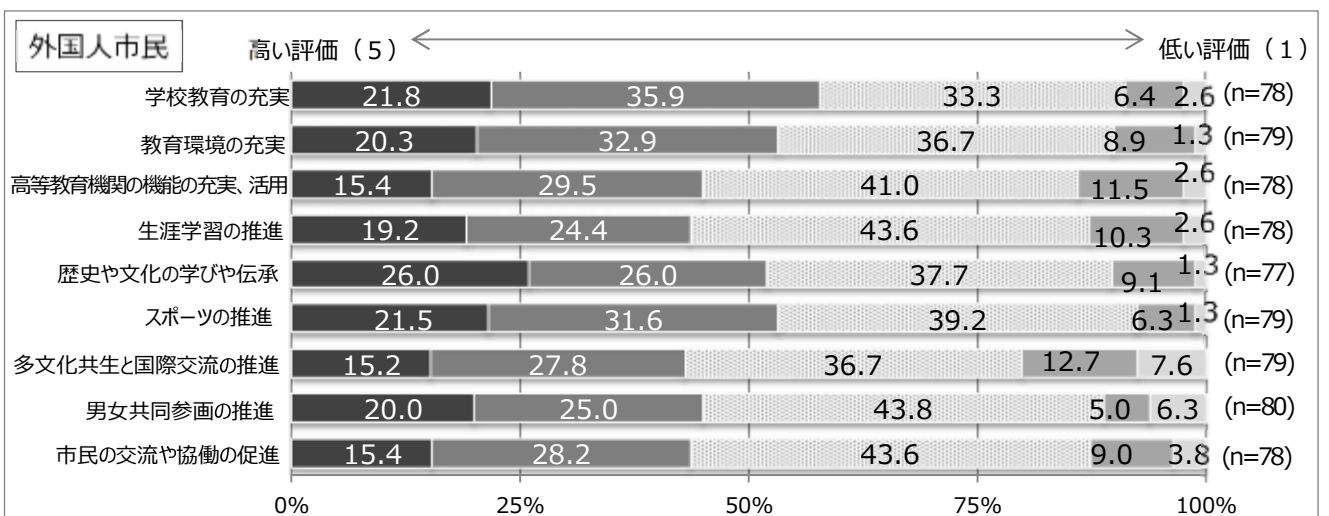
一般市民  
Q70

外国人市民  
Q41

■ 5      ■ 4      ■ 3      ■ 2      ■ 1



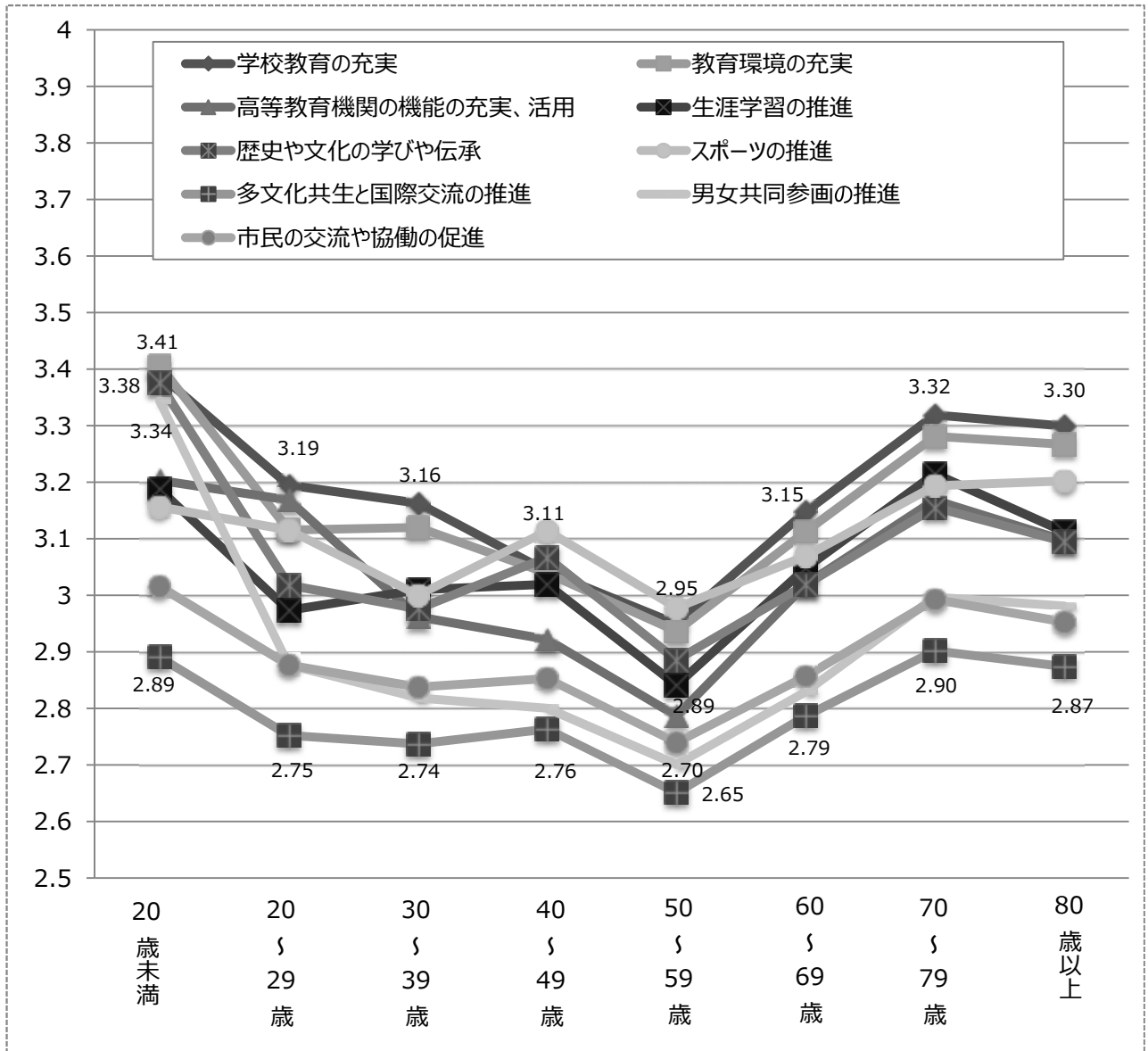
政策の評価（満足度）として、比較的高い評価である「5」、「4」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「学校教育の充実」(26.8%)となり、次いで「教育環境の充実」(25.2%)、「スポーツの推進」(24.3%)が続いた。一方で、比較的低い評価である「1」、「2」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「多文化共生と国際交流の推進」(28.7%)となり、次いで、「男女共同参画の推進」(23.7%)、「市民の交流や協働の促進」(23.3%)が続いた。



外国人市民をみると、政策の評価（満足度）として、比較的高い評価である「5」、「4」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「学校教育の充実」(57.7%)となった。一方で、比較的低い評価である「1」、「2」を回答した割合の合計が最も高かった政策は、「多文化共生と国際交流の推進」(20.3%)となった。

年齢階層別の比較(一般市民)

※各選択肢の数値を加重平均し、指数化



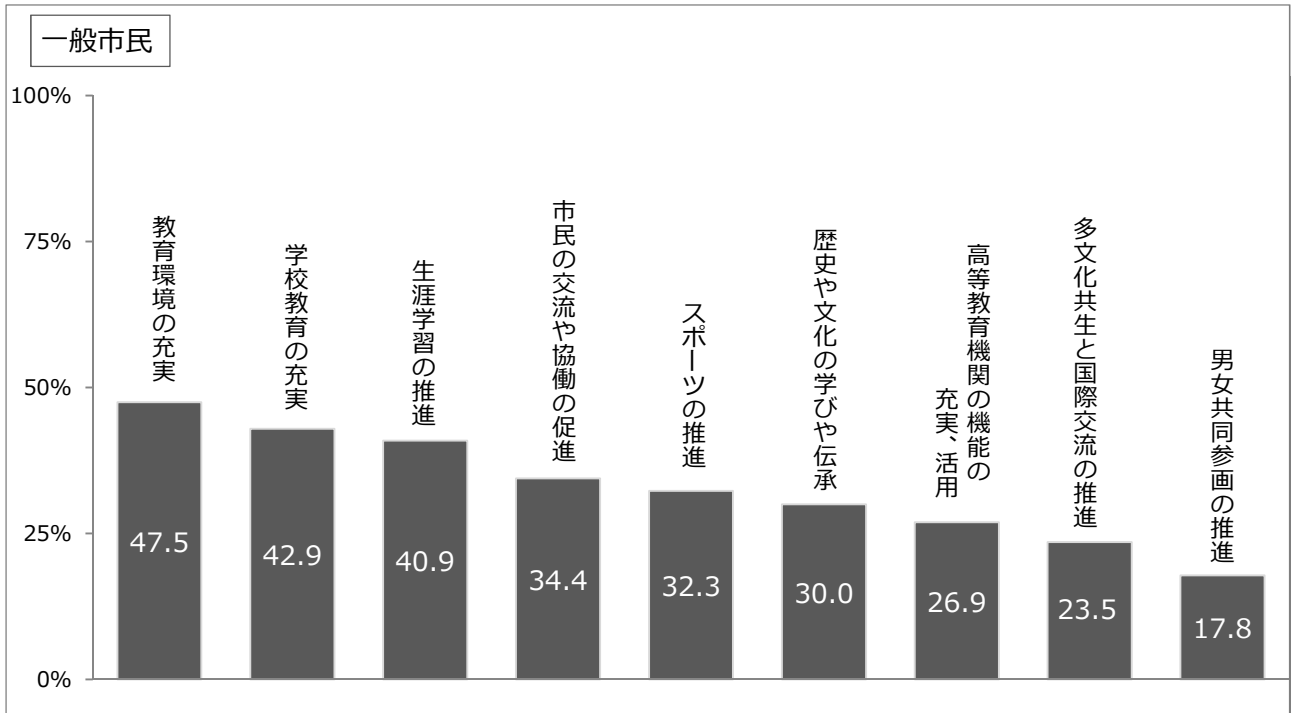
年齢階層別に、「安心して暮らせる都市」づくりを進めるために位置付けられた政策の評価(満足度)をみると、「20歳未満」で「教育環境の充実」、「20～29歳」、「30～39歳」、「60～69歳」、「70～79歳」、「80歳以上」で「学校教育の充実」、「40～49歳」、「50～59歳」で「スポーツの推進」が最も高くなった。

また、年齢階層間の各政策への評価(満足度)の差をみると、最も差が大きかったのは、「男女共同参画の推進」(0.64ポイント差(「20歳未満」:3.34 ⇔「50～59歳」:2.70))となり、次いで、「歴史や文化の学びや伝承」(0.49ポイント差(「20歳未満」:3.38 ⇔「30～39歳」:2.89))が続いた。

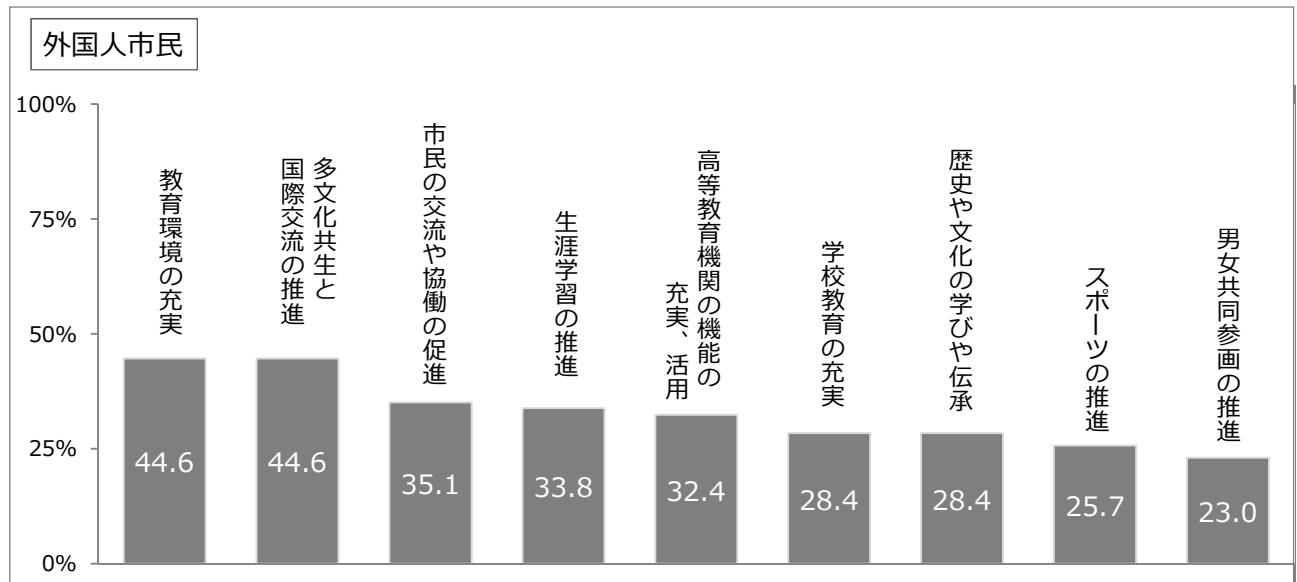
「人生を楽しむ都市」づくりを進めるために位置付けられた  
政策（9項目）のうち優先すべき政策はどれですか。（3つ選択）

一般市民  
Q71  
n=1,835

外国人市民  
Q42  
n=74



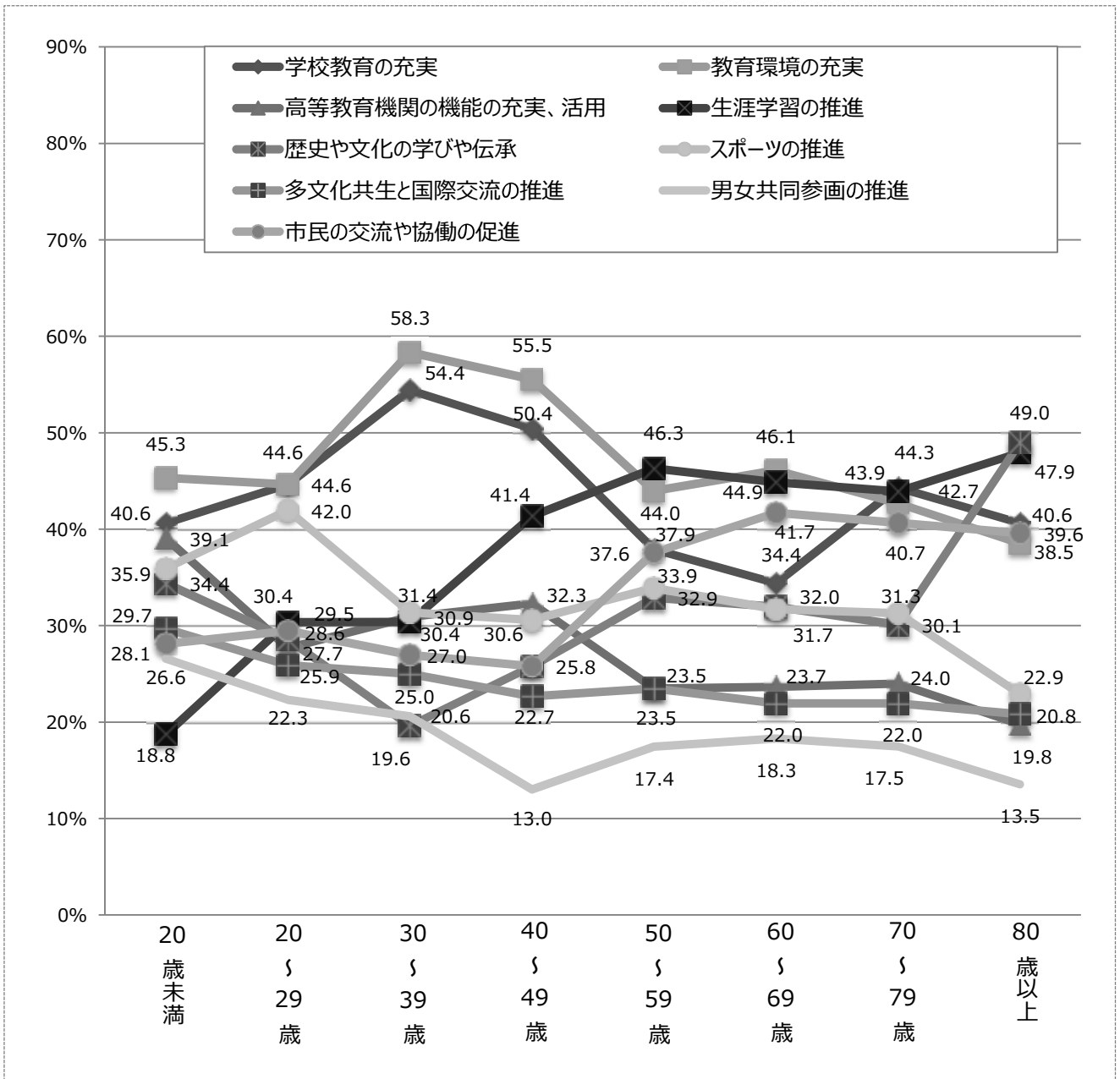
優先すべき政策のうち、選択された割合が最も高かったものは、「教育環境の充実」(47.5%)となり、次いで、「学校教育の充実」(42.9%)、「生涯学習の推進」(40.9%)、「市民の交流や協働の促進」(34.4%)、「スポーツの推進」(32.3%)が続いた。



外国人市民を見ると、優先すべき政策のうち、選択された割合が最も高かったものは、「教育環境の充実」(44.6%)と、「多文化共生と国際交流の推進」(44.6%)となり、次いで、「市民の交流や協働の促進」(35.1%)、「生涯学習の推進」(33.8%)、「高等教育機関の機能の充実、活用」(32.4%)が続いた。



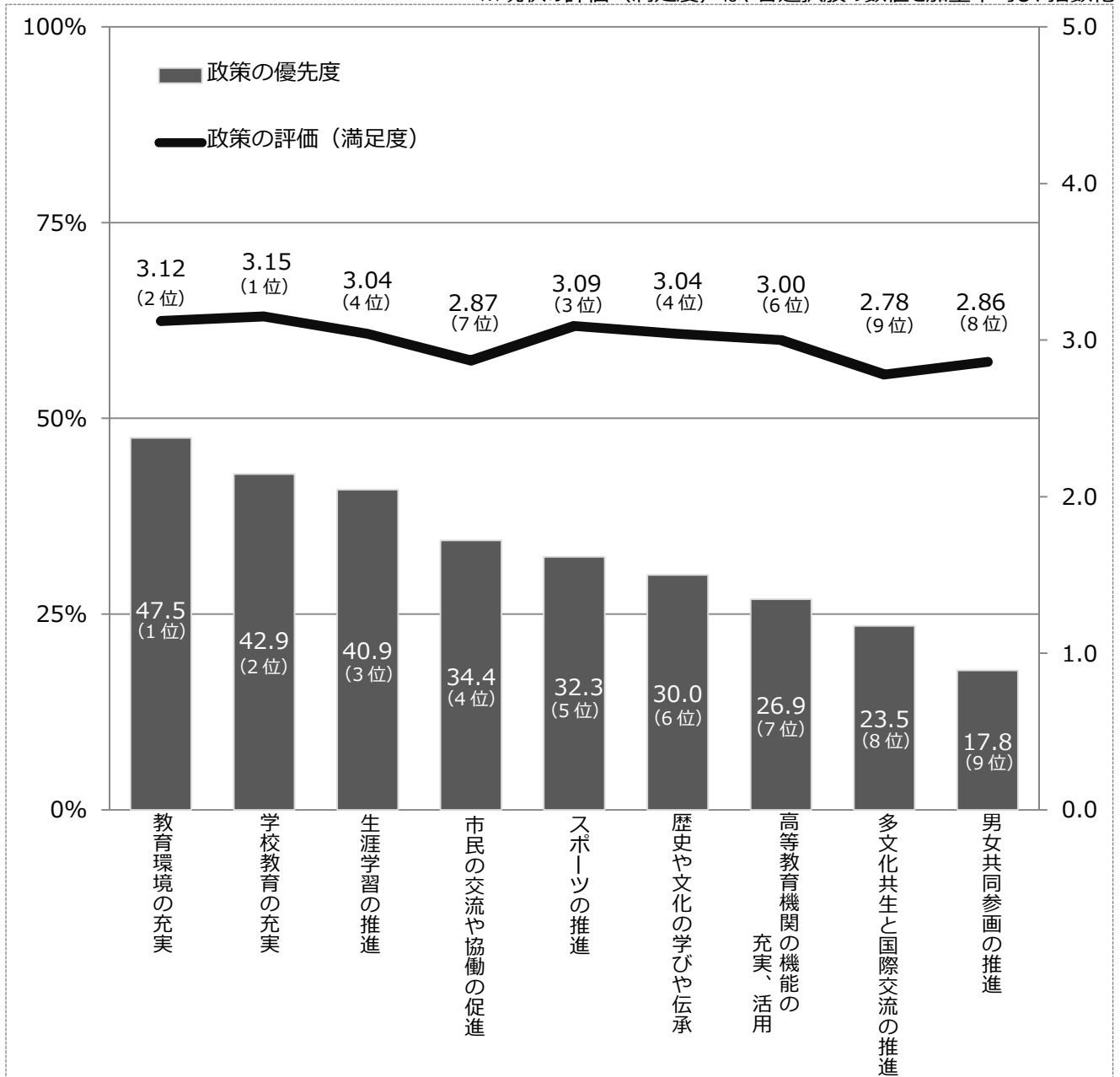
年齢階層対象別の比較（一般市民）



年齢階層別に、「人生を楽しむ都市」づくりを進めるために位置付けられた政策の優先度をみると、優先度が最も高い政策は、「20歳未満」(45.3%)、「20～29歳」(44.6%、一位重複)、「30～39歳」(58.3%)、「40～49歳」(55.5%)、「60～69歳」(46.1%)においては、「教育環境の充実」、「20～29歳」(44.6%、一位重複)、「70～79歳」(44.3%)においては、「学校教育の充実」、「50～59歳」(46.3%)においては、「生涯学習の推進」、「80歳以上」(49.0%)においては、「歴史や文化の学びや伝承」となった。

政策の評価（満足度）と優先度（一般市民）

※現状の評価（満足度）は、各選択肢の数値を加重平均し、指数化



「人生を楽しむ都市」づくりを進めるための9項目の政策間における、現状の評価(満足度)の順位と政策間における優先度の順位の差をみると、評価の差が最も大きくなったものは、「市民の交流や協働の促進」(優先度:4位、現状の評価(満足度):7位)となった。